著者名:	論文題名:	掲載誌名:	掲載巻:	掲載号:	発行年:	掲載頁:
伊坂青司	覚醒する意識―ヘーゲル「一般哲学概説」(1803年)講義草稿(1)の考察	人文研究		140	2000	p3～28
石田雄啓	ヘーゲル『エンチュクロペディー』における言語に関する記述についての覚え書き	Br・ke		13	2000	p117～127
伊藤一美	ヘーゲル「大論理学」の研究(10)	神奈川工科大学研究報告A		24	2000	p1～12
入江幸男	現代における承認の諸相	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p28～40
岩波哲男	ヘーゲルの「神は死んだ」という言葉	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p2～15
岩淵剛	ヘーゲル国家論の研究(1)	研究紀要		34	2000	p1～7
植野公念	ヘーゲルにおける懐疑主義と知―ヘーゲル『懐疑主義論文』の考察	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集		19	2000	p72～86
鵜飼哲・高橋哲也	討議:和解の政治学 和解―思想的課題として／ヘーゲル＝キリスト教的和解／女性国際戦犯法廷の試み／ラッセル法廷の意味／和解と日本社会／アポリアを超えて	現代思想	28	13	2000	p46～68

大河内泰樹	「内的なもの」と「外的なもの」—カントとヘーゲルの実体概念をめぐって	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p53～65
太田信二	ヘーゲル『論理学』における「論理的なものの三側面」について	一橋論叢	123	2	2000	p274～291
大橋基	イェーナ期のヘーゲルの徳倫理学	社会思想史研究		24	2000	p93～106
大橋基	ヘーゲル『法哲学』における「自由」と「性」	哲学年誌		32	2000	p49～65
小川英司	G･H･ミード—プラグマティズム・ヘーゲル・発生論	情況	11	7	2000	p78～92
小川貴史	直接性・媒介性・二重性—ヘーゲル『精神現象学』における、「自己意識」から「理性」への移行の、分析的解明	哲学論叢		27	2000	p38～49
小坂田英之	カントの超越論的論理学について(下)—ヘーゲルと様相論理(8)	深沢ヘーゲル研究会会報		8	2000	p8～9
小坂田英之	イェーナ論理学—ヘーゲルの思考の発展について	東洋		1(別冊)	2000	p83～93

小田川方子	ヘーゲルと中観派における知の構造	小田川方子『生と知の根源—比較思想論集』(理想社)			2000	p139～174
柿崎有美	「有機体」論による『知覚の現象学』読解—メルロ・ポンティにおけるヘーゲルの影響	Ｊtudes fran軋ises		7	2000	p102～112
片山善博	ヘーゲル他者論の射程	法政哲学会会報		18	2000	p29～35
加藤典洋	ヘーゲル、ふうん。ヘーゲル、うまい。	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』(作品社)			2000	p138～141
加藤尚武	ヘーゲル『大論理学』における「質的無限性」テキストの比較(中間報告書)	ヘーゲル論理学研究		6	2000	p115～173
加藤幸信	社会学者がヘーゲルから学ぶもの	宮崎県立看護大学研究紀要	1	1	2000	p15～25
菊地惠善	欲望と他者—ヘーゲルの自己意識概念の再解釈	金沢大学文学部論集		20	2000	p113～134
熊野純彦	他者を語る言葉	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p16～27
幸津國生	ヘーゲルの体系構想における意識の位置づけ—イエナ時代からニュルンベルク時代への発展史	日本女子大学紀要		11	2000	p73～100

小林亜津子	有限者のなかの無限者—ヘーゲル「宗教哲学」講義草稿(1821)における神の宇宙論的証明	アルケー		8	2000	p58～67
小屋敷琢巳	《物》から《事象そのもの》へ—ヘーゲル『精神現象学』の焦点	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p66～79
三枝和子	小説家の「ヘーゲル」勉強	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p135～137
笹澤豊	ユートピアをめぐるカントとヘーゲル	哲学雑誌	115	787	2000	p76～93
佐藤彰	G.W.F.ヘーゲル哲学における教育思想(3)人倫的精神と民族愛	日本大学工学部紀要	41	2	2000	p137～140
佐藤彰	G.W.F.ヘーゲル哲学における教育思想(4)絶対精神と信仰	日本大学工学部紀要	41	2	2000	p141～146
佐野之人	絶対理念と決心—ヘーゲル『大論理学』における	東亜大学研究論叢	24	2	2000	p1～27
篠原敏雄	ヘーゲル法哲学・市民社会・市民法学	飯島紀昭・島田和夫・広渡清吾編『市民法学の課題と展望—清水誠先生古稀記念論集』（日本評論社）			2000	p145～166

柴田隆行	フォイエルバッハとヘーゲルの論理学	ヘーゲル論理学研究		6	2000	p27～44
白銀夏樹	アドルノの経験概念に関する一考察—言語的経験をめぐるアドルノのヘーゲル理解を中心に	教育学研究紀要	46	1	2000	p56～61
新町貢司	ヘーゲルのゾロアスター、ニーチェのツァラトゥストラ	Rhodus		16	2000	p37～47
杉田正樹	ヘーゲルと近代日本	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p149～160
鈴木覚	絶対者の深淵とは何か—ヘーゲルのニヒリズム	哲学・思想論集		26	2000	p81～97
鈴木恒範	ヘーゲルの自然法論	文化女子大学紀要		8	2000	p87～100
高橋英夫	ヘーゲルは詩人か？	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p132～134
高柳良治	ポリツァイとコルポラツィオーン—ヘーゲルの1817･18年講義から	國學院経済学	48	3･4	2000	p361～379
滝口清栄	ヘーゲル小伝	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p98～112
竹村喜一郎	ヘーゲル論理学における認識了解(2)	哲学・思想論集		26	2000	p17～38

多田茂	自己意識の体系的歴史—ヘーゲルの精神哲学における方法的原理の転回(研究発表要旨)	哲学		51	2000	p114～116
田中敦	歴史哲学の意味と可能性について—ヘーゲルとハイデッガーにおける歴史の問題と哲学の方法	人文科学研究		31	2000	p35～66
田中治男	ヘーゲル・マルクス・トクヴィル—19世紀のヨーロッパ思想が残したもの	創価法学	29	3	2000	p179～196
谷口孝男	ヘーゲルにおける精神と自然	北見工業大学研究紀要	32	1	2000	p83～132
土屋敬二	ヘーゲル『精神現象学』における悟性—精神との関連で	立命館哲学		11	2000	p69～88
飛田満	ヘーゲルの「不幸な意識」をめぐって—キリスト教解釈の試み	目白大学人文学部紀要		6	2000	p17～30
中川佳英	アドルノ『芸術理論』とヘーゲル＜主人と奴隷の弁証法＞についての試論	富山県立大学紀要		10	2000	p30～37

中西智美	体系の内なる非体系―ヘーゲル『論理学』における矛盾の考察	人文論究	50	2･3	2000	p99～110
中畑邦夫	スピノザ的実体概念の克服―『大論理学』における「絶対者」章の意義	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p41～52
中村雄二郎＋長谷川宏	ヘーゲル・ハイデガー・アドルノ	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p113～130
野家啓一	ヘーゲル・出会い損ねの記	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p142～144
橋ヒサキ	HEN-PANTA(2.TEIL)Das Problem der Kontradialektik in der Wesenslogik von Zen und Hegel	東洋学研究		37	2000	巻末p394～371
長谷川宏	いま、なぜ、ヘーゲルなのか	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p1～10
早瀬明	ヘーゲル『ドイツ国制論』草稿断片"Der immer sich vergrossernde Widerspruch…"研究(2)草稿の発展史	京都外国語大学研究論叢		55	2000	p257～276

早瀬明	ヘーゲル『ドイツ国制論』草稿断片 ″Der immer sich vergrossernde Widerspruch…″研究(1) 草稿の構造分析	京都外国語大学研究論叢		54	2000	p265～275
早瀬明	レーン制と近代国家—『ドイツ国制論』に於けるヘーゲルの帝国改革構想	京都外国語大学研究論叢		56	2000	p183～204
兵藤佐貴玖	ヘーゲル『美学講義』における享受者への視座	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p92～104
深井智朗	それは最後の旗印なのか？—ヘーゲルにおける「近代世界とプロテスタンティズム」という問題	聖学院大学総合研究所紀要		17	2000	p417～440
福吉勝男	自由と権利の哲学—ヘーゲル『法哲学』の成立経過	思想		911	2000	p119～139
福吉勝男	ヘーゲル「法・権利の哲学」第2回講義の国家論—1818/19年冬学期(ベルリン大学)	名古屋市立大学人文社会学部研究紀要		8	2000	p63～75

福吉勝男	ヘーゲル「法・権利の哲学」第3回講義の基本性格—1819/20年冬学期(ベルリン大学)	名古屋市立大学人文社会学部研究紀要		9	2000	p9～23
星敏雄	学と意識—ヘーゲルにおける意識の位置	二松学舎大学国際政経論集		8	2000	p113～129
細川亮一	三枚重ねの透かし織り—ヘーゲル現象学における理念	哲学年報		59	2000	p25～48
増田豊	消極的応報としての刑罰の積極的一般予防機能と人間の尊厳—カントおよびヘーゲルと訣別してもよいのか	三島淑臣・稲垣良典・初宿正典編『人間の尊厳と現代法理論—ホセ・ヨンパルト教授古稀祝賀』(成文堂)			2000	p135～166
待島はる代	ヘーゲル『精神現象学』における「労働」について	職業能力開発総合大学校紀要B		29	2000	p17～24
松村健吾	ヘーゲル、シェリング、ヘルダーリン思想の交差点にて(1794～1796年)	大東文化大学紀要		38	2000	p467～491
丸山恭司	教育において「他者」とは何か—ヘーゲルとウィトゲンシュタインの対比から	教育学研究	67	1	2000	p111～119

村上恭一	ヘーゲル『精神現象学』における意識・自己意識・理性および精神に関する総合的註釈(下)コジェーヴにおけるヘーゲル、その現代化の試み	法政大学教養部紀要		112	2000	p139～168
村上毅	『法の哲学』における良心論の成立	ヘーゲル哲学研究		6	2000	p80～91
森田侑男	ヘーゲルの絵画論(2)	東京学芸大学紀要第2部門		51	2000	p19～33
山口祐弘	ヘーゲルにおける弁証法の前史―歴史的ディアローグ	東京理科大学紀要		33	2000	p135～153
山城むつみ	ポール・ド・マンに導かれて	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p145～147
山田有希子	ヘーゲルと＜時間への問い＞	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集		19	2000	212～227
山内廣隆	理性の確信と真理―ヘーゲルのIdealismus	広島大学文学部紀要		60	2000	p23～42
吉田六弥	ヘーゲルの「美の理想」について	大阪明浄女子短期大学紀要		14	2000	巻末p106～87
吉本隆明＋長谷川宏	マルクスはヘーゲルを超えたか	長谷川宏編『知の攻略・思想読本1・ヘーゲル』（作品社）			2000	p11～38

寄川条路	否定と存在—ヘーゲルとハイデガー	ハイデッガー研究会編『〈対話〉に立つハイデッガー』(理想社)			2000	p101～114
渡辺祐邦	ほんとうのヘーゲルへの第一歩	ヘーゲル論理学研究		6	2000	p4～6
伊坂青司	「生命論」と「自然哲学」の構想	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p87～101
伊坂青司	自然から生成する精神—ヘーゲル「一般哲学概説」講義草稿(二)の考察	人文研究(神奈川大学)		143	2001	p103～131
石井基博	ヘーゲルと経済倫理—人倫思想にみるJ.スチュアートの経済理論	大阪成蹊女子短期大学研究紀要		38	2001	p61～72
石川伊織	ヘーゲル「哲学史」講義	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p150～168
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』の研究(11)	神奈川工科大学研究報告A		25	2001	p1～13
伊藤信也	イェーナ期ヘーゲルとステュアート—「国民の精神」を手がかりに	アルケー		9	2001	p26～36
岩城見一	ヘーゲル、もう一つの感性論(Asthetik)—「物」というフィクション	哲学研究		571	2001	p37～80

榎本庸男	ヘーゲルの自由と人倫—ここがロドスだ、ここで跳べ	人文論究	50	4	2001	p17～28
海老澤善一	無限と矛盾の論理	ヘーゲル論理学研究		7	2001	p7～20
太田信二	ヘーゲル「懐疑主義論文」における《関係》の理論をめぐって	國學院短期大学紀要		19	2001	p3～26
大西正人	ヘーゲル哲学の原理としての観念的矛盾	法政大学教養部紀要		116	2001	p29～53
大橋基	研究ノート: ヘーゲル『法哲学』における「自由」と「性格」	哲学年誌（法政大学大学院）		32	2001	p49～65
小川真人	ヘーゲル美学における芸術過去論の成立史的考察	シェリング年報		9	2001	p116～126
小坂田英之	情報社会とメタ倫理学—ヘーゲルと様相論理(9)	深沢ヘーゲル研究会会報		9	2001	p9～10
小坂田英之	ヘーゲルとウィトゲンシュタイン—無限判断と言語ゲーム	文部科学省認可通信教育雑誌『東洋』		2001年5月号	2001	p37～46
小坂田英之	ヘーゲル『ハイデルベルク・エンチクロペディー』「本質論」の第一版と第二・三版の異同について	ヘーゲル論理学研究		7	2001	p109～114
尾崎和彦	ヘーゲルストレームによる価値理論批判	明治大学教養論集		342	2001	p21～81

尾崎和彦	スウェーデン・価値ニヒリスムの宗教哲学—アクセル・ヘーゲルストレームにおける宗教と真理問題	明治大学人文科学研究所紀要		49	2001	p1～55
小田智晴	【シンポジウム：希望と責任】自然と技術	ヘーゲル哲学研究		7	2001	p38～51
小田部胤久	ヘーゲル美学における芸術の終焉と新生	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』（世界思想社）			2001	p226～242
角田修一	経済学の方法におけるヘーゲル主義と実証主義	経済科学通信		95	2001	p6～17
片山善博	アイデンティティと承認をめぐる一考察	一橋論叢	125	2	2001	p132～148
加藤恒男	古典的芸術形式の意味と身体理解—ヘーゲル『美学講義』における理想の実現	中京女子大学研究紀要		35	2001	p39～49
加藤尚武	ヘーゲルの労働論	人間会議		2001年秋号	2001	p68～72
加藤尚武	ヘーゲル論理学研究の方向付け	ヘーゲル論理学研究		7	2001	p4～6
加藤尚武	論理学	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』（世界思想社）			2001	p68～86
加藤尚武	意識の意識とはなにか	現代思想		2001年10月号	2001	p200～205

神山伸弘	自然と和解する精神	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p116～132
栗原隆	懐疑と思弁—ヘーゲル弁証法の原像と彫琢	ヘーゲル論理学研究		7	2001	p21～38
栗原隆	懐疑の自己実現と無限性	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p26～47
黒崎剛	ヘーゲル『精神現象学』研究序説—なぜいま『精神現象学』を読み直さなければならないのか:20世紀の哲学との関連から	日本医科大学基礎科学紀要		30	2001	p19～40
黒崎剛	「思考と存在の同一性」とは何か—ヘーゲル『精神現象学』の根本問題としてのデンケン(研究発表要旨)	哲学(日本哲学会)		52	2001	p107～109
小島優子	「ニヒリズムの課題」をめぐって—ヤコービとヘーゲル	上智哲学誌		14	2001	p23～30
小林亜津子	救済史の実現と忘却—ヘーゲル宗教哲学(1821年)と終末論の時間性(研究発表要旨)	哲学(日本哲学会)		52	2001	p116～118

小林亜津子	愛と運命の「論理的」和解としての歴史—「宗教哲学」講義1821年草稿におけるヘーゲルの歴史意識と救済史	実践哲学研究会『実践哲学研究』		24	2001	p1～14
小屋敷琢己	行為する理性は錯乱に陥る—ヘーゲル『精神現象学』における狂気と転倒(研究発表要旨)	哲学(日本哲学会)		52	2001	p110～112
子安宣邦	東洋について(1)ヘーゲル東洋概念の呪縛	環		4	2001	p288～301
座小田豊	『精神現象学』—精神の登高の物語	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p48～67
笹澤豊	ヘーゲル国家論と地球環境問題	環		5	2001	p254～263
佐野正晴	弁証法的方法をめぐる考察	早稲田大学大学院社会科学研究科『紀要』		別冊8	2001	p1～17
柴田隆行	フォイエルバッハとヘーゲルの論理学(3)	ヘーゲル論理学研究		7	2001	p39～58
柴田隆行	世界史は自由の意識の発展過程か	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p134～149

鈴木伸一	ヘーゲルとギリシャ悲劇(1)『キリスト教の精神とその運命』における、運命との和解	駿河台大学論叢		22	2001	p1～27
高柳良治	【研究ノート】ヘーゲルの「普遍的資産」概念について	ヘーゲル哲学研究		7	2001	p52～62
滝口清栄	精神の教養形成と制度の体系	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p187～204
滝口清栄	マルクス「学位論文」の歴史意識ーヘーゲル哲学の内在的克服	情況	2	8	2001	p126～135
竹村喜一郎	カントのアンチノミーとヘーゲル	筑波哲学		11	2001	p14～34
多田茂	自己意識の体系的歴史—ヘーゲルの精神哲学における方法的原理の転回	哲学(日本哲学会)		52	2001	p209～218
東城国裕	キルケゴールvs.ヘーゲル—アブラハムをめぐって	日本の科学者	36	4	2001	p181～185
中里壽明	古典ギリシャ劇とヘーゲル美学	中里壽明『演劇の比較文化論』(オセアニア出版社)			2001	p18～38
長嶋隆	ヘーゲルの有機体論	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p102～115

尼寺義弘	ヘーゲル政治経済学の研究	阪南論集	36	4	2001	p71～78
西山雄二	ヘーゲル『法哲学』における君主制―ジャン＝リュック・ナンシーの思想を参照しながら	一橋研究	26	2	2001	p69～92
林進	ヘーゲル美学覚書―「理念の感覚的あらわれ」としての芸術の終焉をめぐって	大谷女子大学紀要	35	1･2	2001	p28～46
早瀬明	ハイデルベルグならびにベルリン時代の法哲学講義聴講ノート	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』（世界思想社）			2001	p169～186
早瀬明	ヘーゲル『ドイツ国制論』草稿断片 ″Der Name fur die Staatsverfassung･･･″―新発見断片の邦訳と註解その一	京都外国語大学『研究論叢』		57	2001	p243～251
早瀬明	ヘーゲルにおける権力の発見－『ドイツ国制論』と権力国家思想	京都外国語大学『研究論叢』		58	2001	p205～225
原崎道彦	青年時代	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』（世界思想社）			2001	p14～25

福吉勝男	ヘーゲル「法・権利の哲学」第6回講義の国家論—1824/25年冬学期(ベルリン大学)	名古屋市立大学人文社会学部研究紀要		10	2001	p1～24
星敏雄	ヘーゲル『精神現象学』の三つのSpitze—「観察する理性」、「有用性」、「良心」	二松学舎大学論集		44	2001	p59～74
星敏雄	ヘーゲルの自己意識—『精神現象学』意識と自己意識の章の論理	二松学舎大学国際政経論集		9	2001	p105～119
松村健吾	祖国を捨てた若者たち—ルソー、ヘーゲル、ヘルダーリン	大東文化大学紀要		39	2001	p403～420
盛永審一郎	【シンポジウム：希望と責任】存在と不可侵性	ヘーゲル哲学研究		7	2001	p21～37
山口誠一	矛盾の哲学—ニーチェ・ヘラクレイトス・ヘーゲル	法政大学教養部紀要		116	2001	p29～50
山口祐弘	ヘーゲルにおける弁証法論理の成立—同一性の内部構造と関係の論理	思想		921	2001	p4～25
山口祐弘	芸術と共同性—ヘーゲルにおける美の歴史性—	シェリング年報		9	2001	p37～47

山口祐弘	ヘーゲルにおける弁証法の開示性—否定の諸相と根拠への階梯	思想		929	2001	p129～143
山口祐弘	ヘーゲルのヤコービ批判も反省批判の岐路	東京理科大学『紀要』		34	2001	p165～182
山崎純	宗教の実現は宗教の終焉である	加藤尚武編『ヘーゲルを学ぶ人のために』(世界思想社)			2001	p205～225
山田有希子	ヘーゲル精神現象学における逆さまの世界と反復の概念(研究発表要旨)	哲学(日本哲学会)		52	2001	p113～115
山田有希子	ヘーゲルの偶然論	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室『論集』		20	2001	p164～184
山本雄一郎	マルクス『経済学批判』における「外化」概念について—ヘーゲルからマルクスへ	商大論集	52	4	2001	p275～295
吉田浩	因果法則批判の二帰結—M・ウェーバーとヘーゲル・マルクスの見解を手掛かりとして	社会科学研究		14	2001	p29～86
吉田六弥	「ヘーゲルのヤコービへの関係」にかんする最近の研究について	大阪明浄女子短期大学紀要		15	2001	p94～78

寄川条路	体系の構築と脱構築―ドイツ観念論の成立と完成	中部哲学会会報		33	2001	p93～109
寄川条路	「無」をどのように理解することができるのか―ヘーゲルの「無」理解について	愛知大学文学論叢		124	2001	p1～15
寄川条路	だれが『最初の体系プログラム』を書いたのか―ドイツ観念論の研究史から見えてくるもの	文学論叢（愛知大学文学会）		123	2001	p1～16
荒木正見	ヘーゲル『精神現象学』における場所論的萌芽	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p41～55
荒木正見	ヘーゲルと西田幾多郎の歴史構造―場所論による比較―	日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report		1	2002	p1～18
いいだもも	マルクス「フォイエルバッハに」―をめぐって―降旗節雄『科学とイデオロギ-』の振り分け方(特集 へ-ゲルとマルクス)	情況	3	10	2002	p166～191
伊坂青司	【シンポジウム：ロマン主義と弁証法】ヘーゲル弁証法とロマン主義的イロニー	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p28～40

石井健司	ホブハウスによる「ヘ-ゲル=ボザンケ的国家論」批判	近畿大学法学（近畿大学法学会）	49	2･3	2002	p315
石井基博	ヘ-ゲルの『人倫の体系』における経済と国家	同志社哲学年報		25	2002	p97～114
石川伊織･神山伸弘･柴田隆行	長谷川訳『精神現象学』は感動の新訳か？	理想		668	2002	p120～138
伊藤一美	ヘ-ゲル『大論理学』の研究(12)	神奈川工科大学研究報告 A 人文社会科学編		26	2002	p1～8
稲葉守	問題提起：ヘ一ゲル論理学は形相的原理によって基礎付けられるべきである	ヘ一ゲル論理学研究		8	2002	p39～52
大石雄爾	「普通の理解力」で読むヘ-ゲル論理学の「定有論」	駒沢大学経済学論集	34	1	2002	p1～31
大橋良介	「歴史の終わり」以後の歴史思惟	ヘ一ゲル哲学研究		8	2002	p86～101
大橋良介	聴くこととしての歴史―ヘ-ゲル歴史哲学の示唆	創文（創文社）		439	2002	p35～39
大藪敏宏	実定法の偶然性と法哲学―ヘ-ゲルの実証法学論とハ-バ-マスの法制化論	人文社会学部紀要（富山国際大学）	2	12	2002	p19～27
小坂田英之	付論1：「主観的概念」の初版と第2･3版の異同について	ヘ一ゲル論理学研究		8	2002	p113～119

小田淑子	ヘ−ゲルの宗教理解—その限界と可能性(特集『ヘ−ゲル 宗教哲学講義』を読む)	創文		441	2002	p17～20
面一也	ヘ−ゲル政治思想における同一性と他者性—政治単位の排他性に関する一考察	政治思想研究(政治思想学会)		2	2002	p55～72
角田修一	ヘ−ゲル論理学・概念論と「資本」の方法	立命館経済学	51	2	2002	p150～176
神山伸弘	解釈者の国家像批判としての国家の動的内在論理—ヘ−ゲル『法の哲学』に対する対立的評価からの脱却をめぐって	フォ−ラム(跡見学園女子大学文化学会)		20	2002	p74～84
神山伸弘	戦争を必然とみることの意味—ヘ−ゲル『法の哲学』における相互承認の積み重ねとしての国際関係	跡見学園女子大学紀要		35	2002	p13～29
川崎修敬	エドゥアルト・ガンスの国家像とフランス社会観(2・完)ヘ−ゲルの政治哲学との関連で	法学論叢(京都大学法学会)	150	6	2002	p85～109
北村実	政争に翻弄されたヘーゲル	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p4～6

清浦康子	【シンポジウム：ロマン主義と弁証法】ゾルガーの弁証法の特性について	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p15～27
黒崎剛	ヘーゲル『精神現象学』における「意識の経験の学」の正当性について—デカルトからドイツ観念論にいたる，近代哲学の成果として	日本医科大学基礎科学紀要(日本医科大学)		32	2002	p41～62
黒崎剛	思考と労働—ヘ-ゲル『精神現象学』における「思考と存在の同一性」の問題点について	哲学(日本哲学会)		53	2002	p126～135
幸津國生	意識と絶対的理念—ニュルンベルク時代ヘーゲルの体系構想における方法の問題	日本女子大学人間社会学部紀要		12	2002	p25～64
小林亜津子	聖餐をめぐるヘ-ゲルとルタ-—啓蒙と神秘の間	哲学研究(京都哲学会)		573	2002	p72～93
小林亜津子	救済史の実現と忘却—ヘ-ゲル宗教哲学(1821)と終末論の時間性	哲学(日本哲学会)		53	2002	p136～145
権左武志	「歴史における理性」はいかにしてヨーロッパで実現されたか？	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p56～71

権左武志	「歴史における理性」は人類に対する普遍妥当性を要求できるか?—ヘ−ゲル歴史哲学の成立とその神学的—国制史的背景	思想		935	2002	p4～26
紺野馨	批判 ヘ−ゲル論理学読解入門(中−1)本質論A	駒沢短期大学仏教論集		8	2002	p71～100
斉藤一義	ホルクハイマ−とヘ−ゲルの中世・近代観について	経済学論纂(中央大学経済学研究会)	43	1・2	2002	p103～125
佐野之人	自己意識:欲望と承認の概念—ヘ−ゲル『精神の現象学』研究4	東亜大学経営学部紀要		17	2002	p29～62
佐山圭司	マルクスの「フランクフルト時代」—若きヘ−ゲルから「ヘ−ゲル国法論批判」を読む	情況	3	9	2002	p208～223
佐山圭司	『人倫の体系』におけるヘーゲルの経済学受容	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p133～145
塩見剛一	ニュルンベルクにおけるヘ−ゲルの教育論について	教育学科研究年報(関西学院大学文学部教育学科)		28	2002	p67～73
柴田隆行	研究ノートフォイエルバッハとヘーゲルの論理学(4)	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p23～38

島崎　隆	応答：ヘーゲル論理学の再検討・序説—稲葉氏の問題提起に寄せて—	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p53～64
白水浩信	ヘ-ゲル『法哲学綱要』における教育—「市民社会の息子」とポリツァイ	教育科学論集(神戸大学発達科学部神戸大学発達科学部教育科学論講座)		6	2002	p45～53
高山守;仲正昌樹	ヘ-ゲルに無の論理を読む 高山守	情況	3	3	2002	p228～239
高山守	神の場合、概念と存在とは絶対に不可分である(特集『ヘ-ゲル 宗教哲学講義』を読む)	創文		441	2002	p11～15
滝口清栄	『経哲草稿』と『精神現象学』—ヘ-ゲル批判を問い返す、あるいは疎外論の交錯(特集ヘ-ゲルとマルクス)	情況	3	10	2002	p133～147
滝口清栄	ヘ-ゲル法哲学の基本構想・公と私の脱構築	思想		935	2002	p27～47
竹島あゆみ	ヘーゲル法哲学のアクチュアリテート	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p102～117
竹村喜一郎	『聖家族』におけるヘ-ゲル理解の倒錯性(特集 ヘ-ゲルとマルクス)	情況	3	10	2002	p148～165

田村伊知朗	歴史的世界の把握をめぐる思想史的考察—初期カ-ル・シュミット(Karl Schmidt 1819—1864年)のヘ-ゲル左派批判を中心にして(カ-ル・シュミット著作目録添付)	法政大学教養部紀要		121	2002	p35～56
東城国裕	ヘ-ゲルの「神の現存在証明」論について—特に、存在論的証明を中心にして	佐賀大学文化教育学部研究論文集	62	2	2002	p143～166
徳増多加志	形式と実在—ヘ-ゲル論理学に於ける「根拠」の一問題	鎌倉女子大学紀要		9	2002	p11～21
中川玲子	ヘ-ゲル『大論理学』における学の始元への問い	同志社哲学年報		25	2002	p115～130
中沢新一・鈴木一策	対談・ヨーロッパの思想家のヨーロッパ—ヘーゲル、マルクス、フロイトは「ヨーロッパ」といかに格闘したか(思想家とヨーロッパ)	環		別冊5	2002	p284～341
中村元	ヘ-ゲルのバガヴァッドギ-タ-論	帝京大学理工学部研究年報 人文編(帝京大学吉川研究室)		10	2002	p73～114

新田滋	ヘ-ゲルとマルクスの疎外論・観念論・物自体—書評に答える(1)	情況	3	9	2002	p194～203
早瀬明	ヘーゲルの家族論—家族の政治的使命	京都外国語大学『研究論叢』		60	2002	p235～246
兵藤佐貴玖	ヘーゲル「芸術過去論」とガダマー	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p118～132
福吉勝男	ヘ-ゲル「法・権利の哲学」第1回講義の国家・政治体制論—1817/18年・冬学期(ハイデルベルク大学)	名古屋市立大学人文社会学部研究紀要		12	2002	p1～28
藤田俊治	付論2:「客観」・「理念」の初版と第2・3版の異同について	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p120～126
牧野紀之	「ヘ-ゲル哲学辞典」の構想—哲学の言葉と言葉の哲学(特集 文法用語をみなおす)	国文学解釈と鑑賞 (至文堂)	67	1	2002	p101～108
牧野広義	ヘーゲル法哲学講義録1819/20年について	阪南論集 人文・自然科学編	38	1	2002	p1～8
待鳥はる代	ヘ-ゲル法哲学における職業論の可能性—自由主義批判として	職業能力開発総合大学校紀要 B 人文・教育編 (職業能力開発総合大学校)		31	2002	p9～19

水谷千鶴子	「正しく考える」ということ—ヘ-ゲル『小論理学』を読む	星稜論苑(星稜女子短期大学経営学会)		31	2002	p1～20
村上毅	ヘ-ゲル『法の哲学』における"Offentlichkeit" 概念について	文化学年報(神戸大学大学院文化学研究科)		21	2002	p1～16
山口誠一	絶対概念の原点ー青年期ヘーゲルの論理学ー	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p7～22
山口誠一	哲学の始まり(Anfang)をめぐって—ヘ-ゲル『哲学史講義』の迷走	法政大学教養部紀要		120	2002	p1～25
山口祐弘・竹村喜一郎・会沢清	ヘ-ゲルの絶対者把握の固有相と意味	情況	3	3	2002	p206～227
山口祐弘	概念の運動と反省諸規定—ヘーゲルにおける体系の理念と方法—	東京理科大学紀要		35	2002	p153～175
山口祐弘	ヘーゲルにおける歴史認識の時間性	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p72～85
山崎純	ヘ-ゲル像の脱構築(特集『ヘ-ゲル 宗教哲学講義』を読む)	創文		441	2002	p7～10
寄川条路	ヘ-ゲル『精神現象学』を読む(上)実体と主体を手がかりにして	愛知大学文学論叢		126	2002	p1～22

赤石憲昭	ヘーゲルの必然性の判断について	ヘーゲル哲学研究		9	2003	p81～95
赤石憲昭	ヘーゲルの「仮言判断」の具体例をめぐって	ヘーゲル論理学研究		9	2003	p57～74
伊藤功	ヘーゲルと一者の形而上学―ヤコービ「ブルーノ抜粋」を通じたヘーゲルと新プラトン主義の出会い―	新プラトン主義研究		2	2003	p63～80
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』の研究(13)	神奈川工科大学研究報告 A 人文社会科学編		27	2003	p1～11
伊藤信也	若きヘーゲルとナショナリズム	唯物論と現代(関西唯物論研究会 文理閣)		31	2003	p66～80
稲生勝	「自然の無力」から精神へ	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p180～199
岩佐茂	誤解されたヘーゲル―マルクス的解釈との関連で―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p286～309
岩佐茂	ヘーゲルの読書ノート―ヘーゲルとレーニン―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p120～121
大石雄爾	「普通の理解力」で読むヘーゲル論理学の「向自有論」	駒沢大学経済学論集	35	2	2003	p53～84

大河内泰樹	Logik der Identität und Verschiedenheit in Hegels Wissenschaft der Logik	ヘーゲル論理学研究		9	2003	p25～56
大河内泰樹	魂(Seele)から精神(Geist)へ―ヘーゲルにおける形而上学的心理学批判―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p122～144
大西光弘	本質の鏡と神の鏡(前半)西田にみるヘーゲルとライプニッツ(特集 西田幾多郎のライフヒストリー研究)	立命館人間科学研究		5	2003	p121～130
片山善博	他なるものをめぐって―フォイエルバッハをめぐって―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p260～283
片山善博	経験と真理の地平―ヘーゲルとハイデッガー―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p178～179
神山伸弘	個々人は普遍的意志を担いうるか？―ヘーゲル『法の哲学』において人民を精神と捉える意味―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p148～176

川野美玲	理性主義の限界―ヘーゲルとニーチェ―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p146～147
栗原隆	精神が地上に登れば暁、影・日向分かつ世界に自由が燃え立つ―ヘーゲルが残した『1803年の神話と芸術をめぐる草稿』についての註記	鈴木任秀編『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』(高志書院)			2003	p141～161
黒崎剛	ヘーゲルの「意識経験学」という方法の解明―『精神現象学』・「緒論」に即してみた「意識経験学-存在学」の二段構え構想について	日本医科大学基礎科学紀要		33	2003	p23～41
小屋敷琢己	《精神》の領域―ヘーゲルとハーバーマス＼アーレント―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p258～259
小屋敷琢己	《精神》の条件－ヘーゲル哲学と功利性原理－	岩佐茂・島崎隆編『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p92～118
権左武志	ヘーゲル歴史哲学講義に関する研究報告	ヘーゲル哲学研究		9	2003	p110～131

佐伯啓思	「ホッブズ的世界観の復活」は「ネオコン」の詐術(時評2003)	中央公論	118	8	2003	p38～41
佐山圭司	イエーナ期ヘーゲルのスミス受容	ヘーゲル哲学研究		9	2003	p96～109
佐山圭司	「人倫における悲劇」から「市民社会」の誕生	岩佐茂・島崎隆編『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p62～89
島崎隆	ヘーゲルにおける《精神》の概念とその意義	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p35～58
島崎隆	ヘーゲルにおける《精神の哲学》の構想	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p25～33
島崎隆	相互承認論と多文化主義—ヘーゲルとテイラー—	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p284～285
杉田正樹	巻頭エッセイ「恩知らず(undankbar)」について	ヘーゲル論理学研究		9	2003	p4～6
鈴木覚	「絶対的なもの」とは何か—ヘーゲルの「絶対的なもの」の理念	哲学・思想論叢(筑波大学哲学・思想学会)		21	2003	p1～13
須藤孝也	《同一性》哲学の限界	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p90～91

瀬戸一夫	【シンポジウム: フィヒテとヘーゲル】フィヒテの基体なき実体概念	ヘーゲル哲学研究		9	2003	p18～41
銭廣雅之	ヘーゲル『精神の現象学』における想起について(2)	広島県立大学論集	7	1	2003	p119～126
銭廣雅之	ヘーゲル『精神の現象学』における想起について(1)	広島県立大学論集	6	2	2003	p15～23
高田純	自己意識と自由(6)ヘーゲル『精神現象学』(「自己意識」論)図解	経済と経営(札幌大学経済学会)	33	4	2003	p433～478
竹島あゆみ	復古のもとでの立憲主義—ヘーゲル法哲学講義(ベルリン1819－20年)の二つの講義録—	近世哲学研究		9	2003	p67～94
徳増多加志	個なるものの把握と私の存在—ヘーゲル論理学に於ける概念の一側面	鎌倉女子大学紀要		10	2003	p65～74
飛田満	ヘーゲル研究に関する一考察—「自己意識」の問題によせて	目白大学人文学部紀要		9	2003	p188～175

西巻真人	「感覚的確信」をめぐる争い―ヘーゲルとフォイエルバッハ―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p60～61
馬場智一	仏革命の後に―ヘーゲルとレヴィナス―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p232～233
早瀬明	市民社会に対抗する家族	ヘーゲル哲学研究		9	2003	p67～80
久田健吉	ヘーゲル『人倫の体系』の研究	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		1	2003	p61～75
兵藤佐貴玖	ヘーゲル哲学における制作と享受の弁証法―『美学講義』以外のテクストから―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p202～230
福吉勝男	立憲的国制の市民社会的基礎―ヘーゲル「法・権利の哲学」に関わって	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		1	2003	p1～16
本田敏雄	【シンポジウム: フィヒテとヘーゲル】フィヒテ哲学体系の独創性	ヘーゲル哲学研究		9	2003	p51～66
待鳥はる代	ヘーゲル『精神現象学』における個と共同体―「疎外された精神」をめぐって	職業能力開発総合大学校紀要Ｂ人文・教育編		32	2003	p1～10

待鳥はる代	絶対知からの脱出―ヘーゲルとポストモダン―	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p200～201
松枝到	アジアとはなにか(19)ヘーゲルの＜アジア＞	月刊しにか(大修館書店)	14	10	2003	p88～93
三浦信一郎	ヘーゲルの音楽美学との関連におけるA.Fr.J.ティボーの音楽観	芸術論究(帝塚山学院大学 帝塚山学院大学美学美術史研究室)		30	2003	p1～12
三崎和志	「自由」を原理とする歴史哲学の射程	岩佐茂・島崎隆編著『精神の哲学者ヘーゲル』(創風社)			2003	p234～257
山内廣隆	【シンポジウム: フィヒテとヘーゲル】フィヒテのヘーゲル批判	ヘーゲル哲学研究		9	2003	p42～50
山口誠一	ヘーゲルの「本質としての本質」―イェーナ「哲学史講義」自筆草稿を求めて	法政大学教養部紀要		123	2003	p29～44
山口祐弘	ヘーゲル弁証法と場所的論理―西田哲学との対論	思想		951	2003	p100～117
山口祐弘	イエナ期ヘーゲルにおける概念思想の成立	ヘーゲル論理学研究		9	2003	p7～24

山田忠彰	ローマのムジカ―ヘーゲルの音楽論を顧慮して―	日本女子大学人間社会学部紀要		13	2003	p123～138
山田有希子	弁証法の弁証法的概念にむけて	宇都宮大学教育学部紀要		53	2003	p47～58
山本広太郎	マルクスの資本主義批判と共産主義―ヘーゲル『論理学』「本質論」との関連	大阪経済法科大学経済学論集	27	1	2003	p11～37
吉田浩	M・ウェーバーによるヘーゲル批判の特質とその問題点	社会科学研究(徳島大学徳島大学総合科学部)		16	2003	p29～95
寄川条路	ヘーゲル『精神現象学』を読む(中)実体と主体を手がかりにして	愛知大学文学論叢		127	2003	p1～28
寄川条路	ヘーゲル『精神現象学』を読む(下)実体と主体を手がかりにして	愛知大学文学論叢		128	2003	p1～21
伊坂青司	「新しい神話」の理念とヘーゲルの神話論－「一般哲学概説」講義草稿(1803)の考察	人文研究１５３			2004	p13～37
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』の研究(14)	神奈川工科大学研究報告A人文社会科学編		28	2004	p1～12

今井弘道	若き丸山真男－個人主義と全体主義の間－丸山の田辺・シュミット・ヘーゲルとの関係をめぐる一試論	理戦		77	2004	p38～67
今道友信	カント、ヘーゲルを愛した「わが友 渡邉恒雄君」(人物ワイド「ボスの研究」(6)野球とメディアの支配者・渡邉恒雄)	Boss (経営塾)	19	1	2004	p29～32
岩城見一	ヘーゲルと近代散文文芸－美学講義のコンテクスト	哲学研究		577	2004	p1～31
大西正人	カントの超越論的観念性とヘーゲルの矛盾－ヘーゲルはおのれの主張する「矛盾」の由来をいかに理解したか	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p91～108
大薮敏宏	法における自由の実現と人倫的世界の無神論—ヘーゲル法哲学における自由意志能力説批判	人文社会学部紀要(富山国際大学)		4	2004	p13～23

大藪敏宏	法における自由の現実と人倫的世界の無神論ーヘーゲル法哲学における自由意志能力説批判	人文社会学部紀要		4	2004	p13～23
小坂田英之	ヘーゲルの「イェーナ論理学」についてーヘーゲルと様相論理(11)	深沢ヘーゲル研究会会報		11	2004	p10～11
面一也	ヘーゲル政治思想におけるソフィスト的思考との対決ープラトン批判期対話篇との対象を通して	早稲田政治経済学部誌		357	2004	p105～121
片山善博	ヘーゲルとの対話—思考の他者をめぐる問い—	フォイエルバッハの会編『フォイエルバッハ—自然・他者・歴史—』(理想社)			2004	p147～161
加藤尚武	「無限性」の観念史のこころみーゲーテ「スピノザに学ぶ」を資料として	ヘーゲル論理学研究		10	2004	p67～78
神山伸弘	革命と現実、有機的国家をめぐる分裂した風景画ーヘーゲル『法哲学』の射程をさえぎるシンポジウムの濃霧について	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p79～86

川崎誠	ヘーゲルが隠されている―『哲学探究』の規則問題に仮象の論理を読む	専修人文論集		75	2004	p117～147
菊池恵善	道徳の根拠をめぐる問い―カントとヘーゲルの対立を超えて	千田義光・久保陽一・高山守編『講座　近・現代ドイツ哲学（1）―カントとドイツ観念論』（理想社）			2004	p253～279
北村実	カテゴリー批判としてのヘーゲル論理学	ヘーゲル論理学研究		10	2004	p18～26
久保陽一	「無限性」と「認識活動」―「超越論的観念論」としてのヘーゲルの論理学と形而上学	哲学雑誌		791	2004	p74～91
久保陽一	関係における自己認識―フィヒテ、ヘルダーリン、ヘーゲルにおける「生」の再構成	千田義光・久保陽一・高山守編『講座　近・現代ドイツ哲学（1）―カントとドイツ観念論』（理想社）			2004	p217～251
クラウス・フィーベーク	美的懐疑としてのロマン主義的イロニー(山口祐弘監訳)	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p3～21

黒崎剛	ヘーゲル論理学研究にいま必要なこと—「矛盾論」と「推理論」の方法論上の違いについて	ヘーゲル論理学研究		10	2004	p53～65
黒崎剛	「無限性」はいかなる存在学を基礎付けるのか—ヘーゲル『精神現象学』における「無限性」論の研究	日本医科大学基礎科学紀要		34	2004	p11～49
権左武志	ヘーゲル研究会シンポジウム・コメント	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p87～90
才野原照子	「自己疎外と自己形成」に即してヘーゲルを読む—『精神現象学』「序文」を中心に	日本大学大学院総合社会情報研究科紀要		4	2004	p449～459
佐藤康邦	岩波版『法の哲学』の翻訳を終えて	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p70～73
佐野之人	ヘーゲル『大論理学』第1版質論研究	東亜大学紀要		3	2004	p13～22
佐山圭司	ヘーゲル法哲学における伝統と革命	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p29～40
塩見剛一	ヘーゲル哲学の喜劇論に関する教育学的考察	人文論究			2004	p132～144

柴田滋	普遍的法則としての人格的抽象法(上)社会保障法の観点からのヘーゲル抽象法論の再検討	西日本短期大学大憲論叢		42	2004	p27～55
島崎隆	ヘーゲルの論理学―弁証法をいかに再把握すべきか？	ヘーゲル論理学研究		10	2004	p35～52
高山守	なぜ、生命は尊いのか―ヘーゲル『論理学』における生命論に即して	哲学雑誌		791	2004	p92～110
高山守	「普遍」と「個別」との両立(「矛盾」)をめぐって	ヘーゲル論理学研究		10	2004	p27～34
高山守	ヘーゲル哲学と無(特集無／空)	日本の哲学		5	2004	p102～118
滝口清栄	19世紀とヘーゲル法哲学―『法(権利)の哲学』の反響	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p41～55
竹田青嗣	近代国家と自由の相互承認―ルソーとヘーゲルの「原理」	アステイオン		60	2004	p54～79
田崎英明	留保なきヘーゲル主義のために	現代思想			2004	p176～178
田中一郎	初期ヘーゲルと「秘密結社」―「盟約」から「同盟」へ	メタフュシカ		35	2004	p13～21
田中潤一	ヘーゲル「精神」概念と有限者の自己形成	関西教育学会紀要		28	2004	p16～20

田中幸世	ヘーゲルにおける家族と普遍的家族について—「第三の家族」の可能性	法の科学		34	2004	p177～191
谷口義治	量子とは何か—ヘーゲルの教説	唯物論と現代		33	2004	p66～77
田村伊知朗	Verwirklichung der politischen Philosophie bei dem Junghegelianer Edgar Bauer—Seine Teilnahme an der Deutschen Revolution im Jahre 1848	北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編	54	2	2004	p57～65
徳増多加志	反省理論の哲学的意味—ヘーゲル論理学に於ける「本質」についての一考察	鎌倉女子大学紀要		11	2004	p29～38
富村圭	フォイエルバッハの「ヘーゲル主義」と同時代のヘーゲル批判	フォイエルバッハの会編『フォイエルバッハ—自然・他者・歴史—』(理想社)			2004	p165～180
中島秀憲	滝沢克己のヘーゲル	九州産業大学国際文化科学部紀要		29	2004	p119～150
中野剛志	中国経済の問題をどう解決するかーヘーゲルの処方箋	発言者		128	2004	p35～39

早瀬明	革命批判から全体主義批判へ－コルボラツィオーン論の政治的射程	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p56～69
早瀬明	ヘーゲル『ドイツ国制論』に於ける代議制概念の研究(1)－解釈史研究その1	研究論叢		62	2004	p99～108
早瀬明	ヘーゲル『ドイツ国制論』に於ける代議制概念の研究(2)－解釈史研究その2	研究論叢		63	2004	p49～58
久田健吉	ヘーゲル「国家論」の研究－『人倫の体系』の地平から	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		2	2004	p83～97
兵藤佐貴玖	ヘーゲルの『芸術哲学』における時間的なるもの－享受者との接点を探る	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p109～122
福吉勝男	家族と「福祉」－ヘーゲルの〈Polizei〉論に関わって	名古屋市立大学人文社会学部研究紀要		16	2004	p1～17
福吉勝男	家族の倫理と論理―G.W.F.ヘーゲルに関わって	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		2	2004	p1～16

藤田友治	フランシス・フクヤマの歴史観－ヘーゲルとマルクスの歴史観の視座から	季報唯物論研究		89	2004	p47～54
伏見嘉晃	ヘーゲル「承認論」研究(研究ノート)－1805／06『イェーナ体系構想』を中心にして	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		2	2004	p155～168
藤本忠	悟性的世界観の批判の学問としてのヘーゲル論理学―『大論理学』「本質論」における同一性の命題の解釈に基づいて	哲学		40	2004	p1～16
待鳥はる代	ヘーゲル『精神現象学』における道徳観―「自己を革新する精神－道徳」をめぐって	職業能力開発総合大学紀要B　人文・教育編		33	2004	p55～64
松岡健一郎	構成の他者―イェナ期ヘーゲル哲学の方法論	哲学論究		18	2004	p17～33
水谷千鶴子	ヘーゲル『精神現象学』と自由の概念―ミルの「自由論」とヘーゲルの「良心論」	星陵論苑		33	2004	p1～16
安岡直	哲学者の教育論(6)―ヘーゲル―個人と共同体の融和へ	発言者		126	2004	p75～79

安岡直	哲学者の教育論(7)—ヘーゲル(2)「近代」という問題	発言者		127	2004	p83～87
薮田正喜	「労働」と「貨幣」の二律背反—柄谷行人のヘーゲル批判を手がかりとして	経済学雑誌			2004	p111～128
山口誠一	ニーチェからヘーゲルへ	法政大学文学部紀要		49	2004	p25～45
山口祐弘	体系知の理念と現象論の可能性—ヘーゲルとフィヒテ	フィヒテ研究		12	2004	p13～32
山口祐弘	ヘーゲルの時代批判—転換期の精神状況	理想		672	2004	p147～167
山田忠彰	閉ざされた『法の哲学』から開かれた『法の哲学』へ	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p74～78
山田有希子	ヘーゲルの生成論(1)	宇都宮大学教育学部紀要	54	1	2004	p69～78
柚木寛幸	1930年代のホルクハイマーの批判理論的要請—ヘーゲル弁証法的バースペクティブの受容の仕方をめぐってのルカーチ・マルクス主義，フライヤー社会学との比較	一橋論叢			2004	p75～10O

吉田六弥	ヘーゲルの音楽論	大阪明浄女子短期大学紀要		18	2004	p61～82
米澤有恒	思想と歴史(1)	兵庫教育大学研究紀要		25	2004	p61～82
寄川条路	ヘーゲル『精神現象学』を読む読む(完) 実体と主体を手がかりにして	愛知大学文学論叢		129	2004	p1～16
青柳宏幸	モーゼス・ヘスにおける「社会的な教育による陶冶」－ヘーゲル陶冶論の影響を中心に	教育学研究年報		24	2005	p39～53
赤石憲明	ヘーゲル論理学研究における専攻研究の考慮について	ヘーゲル論理学研究		11	2005	p33～46
浅沼敬子	土方定一のヘーゲル美学論	文学部論叢(熊本大学文学部)		84	2005	p29～46
石崎嘉彦	シンポジウム：ヘーゲルとレオシュトラウス，レオ・シュトラウスとヘーゲル	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p55～72
飯島昇蔵	シンポジウム：ヘーゲルとレオシュトラウス，マキャベリと近代 －レオ・シュトラウスのマキャベリ解釈	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p41～54
石割隆喜	ヘーゲル主義者、Stencil —V.の他者	英文学研究(日本英文学会)		81	2005	p137～150

伊藤一美	ヘーゲル『大論理学の研究』(15)	神奈川工科大学研究報告A 人文社会科学編		29	2005	p1～12
大橋基	ヘーゲルの「刑罰」論における復讐心の問題	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p118～130
大藪敏宏	自己意識の個別性と偶然性 －ヘーゲル法哲学における意志の自由と個別的自己意識	国際教養学部紀要(富山国際大学図書館委員会)		1	2005	p149～156
小川仁志	国家への〈信頼〉の源泉を問う－ヘーゲルの「世論」と「愛国心」の視点から	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		3	2005	p1～14
小坂田英之	ヘーゲルの『法の哲学』における12表法について(上)―ヘーゲルと様相論理(12)―	深沢ヘーゲル研究会会報		12	2005	p8～9
加藤尚武	シンポジウムコメンテータ:ヘーゲルとレオシュトラウス	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p92～96
加藤尚武	ヘーゲル哲学の解釈テーゼ	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p6～15
加藤幸信	人権論の基盤に何を据えるか	宮崎県立看護大学研究紀要	5	5	2005	p6～17
北村　実	「いかにしてカテゴリー批判は可能か」北村実対 黒崎剛	ヘーゲル論理学研究		11	2005	

許　萬元	ヘーゲル弁証法の本質，牧野紀之編著『理論と実践の統一』	論創社			2005	p352～372
佐藤康邦	シンポジウムコメンテータ:レオ・シュトラウスを介してのヘーゲルとウエーバーとの比較	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p85～91
佐野之人	ヘーゲル『大論理学』第2版質論研究	東亜大学紀要		5	2005	p1～8
柴田隆行	前期シュタインの社会思想研究(5)カント、フィヒテ、ヘーゲル	東洋大学社会学部紀要	43	1	2005	p23～37
下城　一	「身体」への問い ―カント超越論的身体論からヘーゲル頭蓋論へ	横浜国立大学教育人間科学部紀2(人文科学)		7	2005	p1～21
杉田孝夫	ヘーゲル家族論の現代的意義	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p97～106
杉田正樹	ヘーゲル「論理学」の前提	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p107～117
高田　純	シンポジウム:ヘーゲルとレオシュトラウス，ホッブズとヘーゲルにおける近代性 ―シュトラウスの近代政治哲学批判の検討のために	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p73～84

高柳良治	ヘーゲルの社会哲学 ー「身分」と「団体」をめぐって	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p28～40
竹島あゆみ	承認の先駆形態としての愛 ー若きヘーゲルの宗教思想	岡山大学文学部紀要		44	2005	p19～29
田村伊知朗	ヘーゲル左派の思想総体における初期エトガー・バウアーの政治思想の位置づけ—初期カール・シュミットとの連関を中心にして	人文論究(北海道教育大学函館人文学会)		74	2005	p1～11
土屋敬二	ヘーゲルの生命論 ー弁証法の生成，特集21世紀「人間論」の出発点	季報唯物論研究		91	2005	p80～96
中島秀憲	ヤコービそしてヘーゲルにおけるピエティスムス	九州産業大学国際文化学部紀要		32	2005	p77～122
八田隆司	「グローバル化」と「公共性」との関係についての思想的分析 ーヘーゲルにおける「啓蒙主義の宗教批判」を手がかりに	明治大学人文科学研究所紀要		56	2005	p185～195

早瀬 明	ヘーゲルの『ドイツ国制論』に於ける代議制概念の研究(3) ―18世紀後半の帝国論からの影響の研究 その1―	京都外国語大学研究論叢		65	2005	p169～179
原 研二・佐藤健一・松山雄三・笹田博通編	多元的文化の論理 ―新たな文化学の創生へ向けて	東北大学出版会			2005	p559
日暮雅夫	信仰と啓蒙との対話 ―ヘーゲルの「近代」観	比較文化研究年報,(盛岡大学比較文化研究センター)		15	2005	p17～27
藤田正勝	ヘーゲルとシェリング	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p16～27
牧野紀之	ヘーゲル「法の哲学」, 牧野紀之編著『理論と実践の統一』	論創社			2005	p29～53
松生 健	刑法の哲学的基礎 ―カント・ヘーゲルと現代刑罰論	刑法雑誌(日本刑法学会, 日本刑法学会第82回大会ワークショップ)	44	2	2005	p253～256
守屋 徹	ヘーゲルとプロイセン--教会改革史の視点から見た国家論の位相	史学(三田史学会)		74	2005	p161～178
山内廣隆	ドイツ観念論再構築に向けた地盤形成的研究 フィヒテ、ヘーゲル関係を基盤として	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書 広島大学			2005	

山口祐弘	ヘーゲルの思考法 －反省・直観・思弁—	『哲学をつくる 東洋大学哲学講座3 』(知泉書館)			2005	p35～66
赤石憲昭	ヘーゲル判断論における真理について－具体例から読み解くヘーゲル判断論	一橋研究	31	1	2006	p35～51
荒木正見	《シンポジウム：ヘーゲルと京都学派》コメンテータ西田幾多郎、田邊元とヘーゲル弁証法	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p74～78
伊坂青司	シェリング同一哲学とヘーゲル初期哲学体系構想の差異	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p139～154
板橋勇仁	《シンポジウム：ヘーゲルと京都学派》歴史の過程と永遠性—西田幾多郎と田邊元の弁証法	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p31～42
伊藤一美	ヘーゲルの概念について	神奈川工科大学研究報A人文社会科学編		30	2006	p19～25
江口再起	薔薇と十字架－ルターとヘーゲルを結ぶもの	東京女子大学紀要論集	56	2	2006	p1～25
大橋良介	《シンポジウム：ヘーゲルと京都学派》ヘーゲルと京都学派—「社会の弁証法」をめぐって	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p60～73

小川仁志	公共哲学としてのヘーゲル共同体論	名古屋私立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		4	2006	p1～13
小川仁志	ヘーゲルの多元主義国家観―現代福祉社会の議論によせて	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p155～167
面一也	哲学のための政治(1)ロールズ道徳哲学史におけるヘーゲル第一講義の再検討	政治哲学(政治哲学研究会)		4	2006	p73～108
加藤尚武	ヘーゲル歴史哲学の原型－ヘーゲルは経済学を社会科学として受容したか	国学院経済学	54	3･4	2006	p406～387
金谷佳一	君主制と三権分立との間で－ヘーゲルの英国選挙法改正案批判	鳥取環境大学紀要		4	2006	p41～51
神山伸弘	ヘーゲル『精神現象学』におけるdennの意味について－ヘーゲルの平明な理解を彼方に追いやる没論理的混乱を回避するために	跡見学園女子大学文学部紀要		39	2006	p47～71
久保陽一	信仰から認識へ－ヘーゲルにおける「生の考え方」の展開	駒澤大学文化		24	2006	p57～69

久保陽一	《巻頭言》ヘーゲルの歴史認識の現在性—冷戦後の歴史観の展開に際して	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p3～6
倉田貢	ヘーゲル弁証法の核心ーヘーゲル弁証法の本質と現代的再展開(1)	東日本国際大学経済学部研究紀要	11	1	2006	p37～57
栗原隆	意識と無	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p124～138
黒崎剛	「思考」と「相互承認」ーヘーゲル『精神現象学』における相互承認論と「思考と存在との同一性」問題との混合、およびその帰結としての近代的理性の概念について	日本医科大学基礎科学紀要		36	2006	p1～51
小林裕明	空間-時間と物質についてーヘーゲルにおける「物体論」	現代社会文化研究(新潟大学大学院)		35	2006	p19～36
小林裕明	ヘーゲルの「物体」概念と光の意味	現代社会文化研究(新潟大学大学院)		37	2006	p97～114
小松恵一	ヘーゲルの啓蒙論ー精神現象学における	フィロソフィア・イワテ(岩手哲学会)		38	2006	p25～35
小屋敷琢巳	懐疑と狂気そして絶望—行為する理性は錯乱に陥る	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p110～123

権左武志	ヴァルター・イェシュケ「ヘーゲルの体系」《特定質問と応答》ドイツ観念論における精神概念と自由―イェシュケ氏へ問う	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p25～30
権左武志	帝国の崩壊、ライン同盟改革と国家主権の問題－ヘーゲル王権理論の形成とその歴史的背景	思想		991	2006	p4～28
佐山圭司	生きた全体における個体性の問題－ヘーゲル『1800年の体系断片』の一解釈	哲学(日本哲学会)		57	2006	p197～209
滝口清栄	ヘーゲル最晩年の法哲学－『イギリス選挙法改正論文』をめぐって	言語と文化(法政大学言語・文化センター)		3	2006	p200～182
渋谷繁明	ヴァルター・イェシュケ「ヘーゲルの体系」《特定質問と応答》ドイツ観念論における精神概念と自由―イェシュケ氏へ問う	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p22～25
杉田正樹	ヘーゲル「論理学」の解釈のために	ヘーゲル論理学研究		12	2006	p55～64

谷口義治	量の連続性と分離性ーヘーゲルの教説の検討	唯物論と現代(関西唯物論研究会)		37	2006	p92～105
田村伊知郎	後期近代におけるヘーゲル左派研究の思想史的基礎づけー初期カール・ナウヴェルクの政治思想を中心にして	北海道教育大学紀要人文科学・社会科学編	56	2	2006	p79～86
徳増多加志	論理的なものの体系と外的なものーヘーゲル論理学に於ける「反省論理」の構造について	鎌倉女子大学紀要		13	2006	p1～14
尼寺義弘	G.W.F.ヘーゲルの「普遍的な資産」の概念について	阪南論集社会科学編(阪南大学学会)	42	1	2006	p45～53
西方守	テオドール・リットの弁証法ー『ヘーゲル』を中心にして(1)	石巻専修大学研究紀要		17	2006	p67～76
服部健二	暴力・審判・救済ーヘーゲル哲学を参考に	立命館大学人文科学研究所紀要		86	2006	p77～103
久田健吉	ヘーゲル国家論の原理とその形成ー「市民自治」と「市民倫理」	名古屋私立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		4	2006	p15～30

ヴィルヘルム・プルプス	ヘーゲルによる意識の弁証法—精神現象学評価のために——（その1）（伊藤功・黒崎剛　監訳/赤石憲昭・柴田隆行・中野真訳）	ヘーゲル論理学研究		12	2006	p65～152
干場薫	ヘーゲル「精神哲学草稿」における「概念論」と「言語」について	同志社哲学年報			2006	p83～104
前田喜行	ヘーゲルのコルポラツィオン論における「誇り」の感情	知のトポス（新潟大学大学院）		1	2006	p195～209
松生建	法定刑の引き上げとヘーゲルの刑罰論	法律時報(日本評論社)		78	2006	p38～43
松岡健一郎	初期マルクスのヘーゲル受容	哲学論究(同志社大学哲学会)		20	2006	p23～39
松岡健一郎	『精神現象学』におけるヘーゲルの「構成」批判	同志社哲学年報		29	2006	p105～120
山内廣隆	《シンポジウム：ヘーゲルと京都学派》コメンテータ「ヘーゲルと京都学派」について	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p79～83
山口誠一	現代史に生きる『精神現象学』	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p98～109

山口祐弘	ドイツ観念論における観念＝実在論の鼎立－後期フィヒテ、シェリングとヘーゲル	思想		985	2006	p133～156
山口祐弘	《シンポジウム：ヘーゲルと京都学派》田邊元における絶対無の弁証法―ヘーゲル理解と超克	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p43～59
山口誠一	ヘーゲルとネオプラトニズム	『大航海』		56	2006	p14～15
山田有希子	ヘーゲル精神現象学研究「良心論」	哲学雑誌	121	793	2006	p160～178
柚木寛幸	フライヤー社会学における現実科学的なもの－ヘーゲルからマルクスへ、そしてヴェーバーへ	一橋研究	31	1	2006	p53～70
寄川条路	ヘーゲルと日本の哲学－インター・カルチャーの視点から	愛知大学文学論叢		134	2006	p1～22
赤岩順二	緊急避難への対抗と毀損忍受－ヘーゲル緊急権論の再解釈を手掛かりに	明治大学社会科学研究所紀要	45	2	2007	p195～211

阿部ふく子	思弁的思考と弁証法―思弁哲学の困難と可能性を巡るヘーゲルの視点	東北哲学会年報		23	2007	p19～32
石川文康	理性の現象学と精神の現象学	理想		679	2007	p51～61
石崎嘉彦	『精神現象学』の政治哲学的読解―ヘーゲル、コジェーヴ、レオ・シュトラウスの弁証法をめぐって	現代思想	35	9	2007	p222～239
伊藤功	ヘーゲルの『デ・アニマ』解釈	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p140～148
伊藤一美	ヘーゲルの反省・反省諸規定について	神奈川工科大学研究報告A人文社会科学編		31	2007	p37～52
今井弘道	「承認論」への未帰還―筏津安恕のヘーゲル研究によせて	北大法学論集	58	1	2007	p111～123
入江識元	ヘーゲル主義に対立する概念人物としてのバートルビー―”Bartleby the Scrivener”における言葉の反復	神戸親和女子大学研究論叢		40	2007	p29～37
入江容子	ヘーゲルにおける「神義論」の問題	哲学論集(上智大学哲学会)		36	2007	p105～119
岩崎稔	『精神現象学』「緒論」の反方法的方法と構築主義の問題	現代思想	35	9	2007	p55～63

海老澤善一	目的論の弁証法—ヘーゲル論理学研究(5)	愛知大学文学論叢		135	2007	p1～22
海老澤善一	理念と方法の問題—ヘーゲル論理学研究(6)	愛知大学文学論叢		136	2007	p1～26
大河内泰樹	脱超越論化と相互主観性—ハーバーマスによる『精神現象学批判』のメタクリティーク	理想		679	2007	p106～118
大河内泰樹	『精神現象学』における「キリスト教の脱構築」ーあるいはナンシーにおける留保つきヘーゲル主義	現代思想	35	9	2007	p285～299
大河内泰樹	カントとヘーゲルの間—現代批判理論の位置規定をめぐって	情況 第三期	8	7	2007	p120～133
大橋良介	『精神現象学』における「感性」の射程ー「感覚的確実性」の章から出発して	理想		679	2007	p15～29
大藪敏宏	法の偶然性の三次元と経験論的リベラリズムーヘーゲル法哲学における抽象法の偶然性と先見的自由論	国際教養学部紀要(富山国際大学)		3	2007	p15～31

小田部胤久	芸術終焉論の諸類型―ヘーゲル理解のための一座標	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p173～181
落合仁司	無限、存在、他者―清沢満之と集合論―	宗教研究(日本宗教学会)		354	2007	p25～49
面一也	哲学のための政治(2)ロールズ道徳哲学史におけるヘーゲル第一講義の再検討	政治哲学(政治哲学研究会)		5	2007	p79～115
鹿島徹	規定された否定―感覚的確信から知覚へ	現代思想	35	9	2007	p88～99
堅田剛	吉野作造と明治文化研究会―「ヘーゲルの法律哲学」から「嘆きの天使」まで	独協法学		72	2007	p1～30
加藤尚武	実体-主体説と実体-主語説	理想		679	2007	p4～14
加藤尚武	『精神現象学』というゆがんだ真珠―哲学的なアイデアの宝庫	現代思想	35	9	2007	p8～13
角田修一	分析的方法を基礎とする弁証法的方法―ヘーゲル、マルクス、見田石介―吉田浩氏の拙著への批評について	唯物論と現代(関西唯物論研究会)		39	2007	p86～105

金谷佳一	ヘーゲルの戦争観―ヘーゲルの永遠平和論の批判	鳥取環境大学紀要		5	2007	p31～40
川本隆	神秘主義と質料志向―若きフォイエルバッハのヘーゲル主義とその離反	哲学		58	2007	p163～176
河本英夫	精神問題学	現代思想	35	9	2007	p118～128
久保陽一	「現象学の論理学」再考	理想		679	2007	p40～50
倉田貢	現実に開かれた弁証法―ヘーゲル弁証法の本質と現代的再展開(2)	東日本国際大学経済学部研究紀要	12	1	2007	p77～98
黒崎剛	『精神現象学』・「理性」論における無限性の論理の展開―観察者の立場の克服、あるいは無限判断から推理への転換と「事そのもの」としての精神の生成―	日本医科大学基礎科学紀要		37	2007	p1～37
小島優子	ヘーゲルにおける宗教と言葉の関係―『精神現象学』をめぐって	中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要		8	2007	p25～32

小島優子	『精神現象学』における〈ファウスト主義〉の没落—行動と言葉の観点から	上智哲学誌		19	2007	p1～9
小島優子	ヘーゲルにおける「罪責」と「犯罪」ー『精神現象学』を中心に	哲学		58	2007	p177～190
後藤浩子	「己」としての欲望と「と」としての欲望—ヘーゲル、ドゥルーズそしてバトラー	現代思想	35	9	2007	p129～143
小西章典	役者は〈骨〉であるーヘーゲルとサンドフォード	南山英文学		31	2007	p1～14
小林裕明	自然における主観性の展開と有機体—ヘーゲル『エンチュクロペディー』を中心として	現代社会文化研究(新潟大学大学院)		39	2007	p37～54
佐藤優	『大論理学』から『精神現象学』への私の退行	現代思想	35	9	2007	p31～35
佐藤康邦	オートポイエーシスの観点から見た『精神現象学』	理想		679	2007	p84～94

柴田滋	市民法原理と現代社会法原理―ヘーゲル自由意志論に基づく現代社会法原理の哲学的再考	国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部紀要		3	2007	p59～108
清水茂雄	間接伝達論的論理学(第2部)注釈部(その10)	飯田女子短期大学紀要		24	2007	p1～16
下城一	ヘーゲルの『法哲学』―その成立の背景(1)	横浜国立大学教育人間科学部紀要3社会科学		9	2007	p1～29
杉田孝夫	政治思想としての精神現象学	理想		679	2007	p62～72
住田昌弘	実体は主体である―ヘーゲル『精神現象学』「序文(Vorrede)」の役割	愛知論叢(愛知大学大学院院生協議会)		83	2007	p1～19
高橋章仁	ヤスパースとヘーゲルの真理観	國士舘大學教養論集		61	2007	p1～12
高橋義人	「力と悟性」の可能性	現代思想	35	9	2007	p100～117
高山守	ラッセルの因果論とヘーゲル	理想		679	2007	p73～83
滝口清栄	『精神現象学』の「相互承認」論―「精神の概念」の特異性と絡めて―	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p17～27

滝口清栄	「誕生の時代」という歴史意識—事そのもの、良心、自己意識の外化を通して	現代思想	35	9	2007	p194～202
竹島あゆみ	自由への承認、承認への自由(1)	岡山大学文学部紀要		48	2007	p1～11
竹田青嗣・西研	特別対談 ヘーゲル『精神現象学』を読む	本(講談社)	32	12	2007	p8～13
徳増多加志	絶対的同一性と相異性の論理—ヘーゲル論理学に於ける「反省規定」の構造について	鎌倉女子大学紀要		14	2007	p25～37
長原豊	不完全に留まる端緒—本源的な言葉（ロゴス）	現代思想	35	9	2007	p76～87
中村勝己	一九三〇年代イタリアにおけるヘーゲル「法」哲学の再審—ジェンティーレとソラーリを中心に	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p192～203
西山雄二	ピラミッド、オベリスク、十字架—バタイユとヘーゲルの密やかな友愛をめぐって	現代思想	35	9	2007	p300～314
野尻英一	『精神現象学』の「有機的なもの」と「地」のエレメント	理想		679	2007	p119～131

長谷川宏・岩崎稔	討議『精神現象学』再読—時代の概念的把握のために	現代思想	35	9	2007	p14～30
早瀬明	ヘーゲル『ドイツ国制論』に於ける代議制概念の研究(4)－18世紀後半の帝国論からの影響の研究（その2）	京都外国語大学研究論叢		69	2007	p203～225
福吉勝男	現代の＜公共哲学＞とヘーゲル(1)—市民団体・協会組織・公共性	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		7	2007	p19～34
福吉勝男	現代の＜公共哲学＞とヘーゲル(2)—市民団体・協会組織・公共性	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		8	2007	p15～27
細川亮一	アリストテレス哲学の思弁的な深さと『デ・アニマ』	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p159～168
細見和之	いまひとたびの『精神現象学』、そしていくつもの『精神現象学』	現代思想	35	9	2007	p184～193
松岡誠	市民社会の法哲学—ヘーゲルに関する再考	創価法学	36	3	2007	p31～41
松岡誠	近代国家の法哲学—ヘーゲルに関する再考	創価法学	37	1	2007	p245～257

松下晴彦	デューイ論理学における「自然化されたヘーゲル主義」	日本デューイ学会紀要		48	2007	p55～64
水野建雄	「近代家族」の誕生とヘーゲルの家族論	八洲学園大学紀要		3	2007	p49～57
満井裕子	思弁と人間悟性	理想		679	2007	p95～105
山口誠一	ヘーゲル理解の現場－絶対知は事象(Sache)と取り組む	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p3～6
山口誠一	シンポジウム討論状況報告―ヘーゲル･ヌースの響き	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p169～172
山口誠一	ヘーゲル像の転換と中世ビザンティン哲学	大航海		62	2007	p45～53
山口誠一	『精神現象学』の根本的問い	理想		679	2007	p30～39
山口誠一	現代日本と『精神現象学』受容史	現代思想	35	9	2007	p315～325
山田忠彰	歴史の擾乱者ヘーゲル？－ヘーゲルにおける藝術終焉論	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p182～191
山本亮介	夏目漱石における論理の問題―ヘーゲル哲学への開口部	津田塾大学紀要		39	2007	p1～25
吉田耕太郎	啓蒙とヘーゲルの接点―ひとつの架空対話の試み	現代思想	35	9	2007	p240～251

寄川条路	『精神現象学』の成立—体系の発展史から見た『精神現象学』	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p7～16
渡辺邦夫	アリストテレスにおける理性と自己知	ヘーゲル哲学研究		13	2007	p149～158
長町祐司	「自律と統合」という問題構成へ向けての宗教哲学の胎動—『ドイツ観念論最古の体系プログラム』を巡ってのヘーゲルの宗教的思惟	哲学科紀要（上智大学哲学科）		33	2007	p69～97
赤石 憲昭	ヘーゲルの主体的真理論--ヘーゲルにおける「概念」の人間論的解釈	一橋研究	32	4	2008	73～89
鯵坂 真	ヘーゲル『法哲学』研究の新段階--R.R.ウィリアムズ編『リベラリズムとコミュニタリアニズムを超えて』をめぐって（小特集 ヘーゲル法哲学と現代）	唯物論と現代		40	2008	155～169
鯵坂 真	社会契約論とヘーゲル	立命館文學		603	2008	302～312

麻生 博之	歴史の連続を打破する意識--ベンヤミンにおける歴史意識の概念とヘーゲルの歴史哲学をめぐって	東京経大学会誌. 経済学		259	2008	215～230
阿部 ふく子	理性の思弁と脱自--ヘーゲルとシェリングにおける理性の可能性に関する考察	ヘーゲル哲学研究		14	2008	149～161
荒井 正雄	書評 ヘーゲルの国家論--新視点からの解釈--久田健吉著『ヘーゲル国家論の原理--「市民自治」と「市民倫理」』を読む	哲学と教育		56	2008	29～38
石井 伸男	講演抄録 19世紀前半におけるドイツの哲学・文化革命をめぐって--ヘーゲル・ベートーヴェン・マルクス(武井昭教授・山崎益吉教授・木暮至教授・三浦達司教授・石井満教授・石井伸男教授 退職記念号)	高崎経済大学論集	50	3・4	2008	261～263

石川 伊織	旅の日のヘーゲル--美学体系と音楽体験:1824年9月ヴィーン	県立新潟女子短期大学研究紀要	45		2008	223～241
石崎 嘉彦	レオ・シュトラウスの哲学とシュトラウス学派政治思想の研究	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究(B)）			2008	184p
伊藤 信也	ヘーゲル法哲学における国民精神と憲法体制(小特集 ヘーゲル法哲学と現代)	唯物論と現代		40	2008	140～154
伊藤 信也	ヘーゲル法哲学における「世論」とは何か	立命館文學		603	2008	351～362
岩井 洋子	契約論、団体論の再生--ヘーゲルを補助線として	哲学年誌		40	2008	17～44
植野 公稔	イエナ期ヘーゲルの道具論--<個別と普遍との統一>に関する思想をめぐって	駒沢大学文化		26	2008	92～73
海老澤 善一	狂気と絶対知--ヘルダリーンとヘーゲルとの差異	愛知大学文学論叢		138	2008	1～30
大出 敦	虚無より生じる詩--マラルメによる仏教とヘーゲルの受容	教養論叢（慶應義塾大学法学研究会）		128	2008	145～188

大橋 良介	経験・言葉・解体構築--ヘーゲル『精神現象学』を足場として(シンポジウム 日本の哲学思想の可能性)	立正大学哲学会紀要		3	2008	15～21
小川 仁志	貧困問題をめぐるコルポラツィオーンの限界と可能性	徳山工業高等専門学校研究紀要		32	2008	41～48
小川 仁志	ヘーゲルにおける共同体原理の解明と展望:<多元主義>国家と現代福祉社会をめぐる考察(博士学位論文内容の要旨および審査の結果の要旨)	人間文化研究(名古屋市立大学大学院人間文化研究科)		9	2008	207～212
小坂田 英之	ヘーゲル『大論理学』と黒い花—存在しないものを挙げ示すこと	ヘーゲル論理学研究		14	2008	4～5
角田 修一	シュモラーとヴェーバーにおける社会科学・経済学の方法--ヘーゲルとマルクスからみた差異	立命館経済学	57	1	2008	1～27
角田 修一	近代市民社会批判の学としてのヘーゲルとマルクス	立命館文學		603	2008	313～327

堅田 剛	〈法〉の精神とその運命--『ヘーゲル初期神学論集』を読む	独協法学		77	2008	97～128
堅田 剛	ヘーゲル哲学と法の実定性--『法の哲学』の読み方について	独協法学		76	2008	1～32
片山 善博	ヘーゲルの人間観	田上孝一・黒木朋興・助川幸逸郎編著『<人間>の系譜学：近代的人間像の現在と未来』（東海大学出版会）			2008	
加藤 尚武	ヘーゲル哲学と懐疑主義	佐藤義之・安部浩・戸田剛文編『知を愛する者と疑う心：懐疑論八章』（晃洋書房）			2008	
加藤 尚武	ヘーゲルのホーリズムを真剣に考える（シンポジウム 精神現象学二〇〇年）	東北哲学会年報		24	2008	81～87
久保 陽一	ヘーゲルにおける「ホーリズム」と「プラグマティズム」--ブランダムの『精神現象学』解釈について	駒澤大学総合教育研究部紀要		2	2008	1～19

久保 陽一	ヘーゲルにおける「ホーリズム」と「プラグマティズム」--ブランダムの『精神現象学』解釈について(シンポジウム 精神現象学二〇〇年)	東北哲学会年報		24	2008	73～79
栗原 隆	「新しい神話」とは、超越論的観念論のことではなかったのか(クロス討論 日本ヘーゲル学会VS日本シェリング協会)	ヘーゲル哲学研究		14	2008	175～176
黒崎 剛	近代社会と意識経験--ヘーゲル『精神の現象学』における「精神」論の叙述の対象について	日本医科大学基礎科学紀要		38	2008	19～38
小井沼 広嗣	ヘーゲル哲学における近代と悪の問題	哲学年誌		40	2008	45～67
小島 優子	ヘーゲルと「美しい魂」に関する考察—『精神現象学』を中心に	ヘーゲル論理学研究		14	2008	53～66
小林 裕明	ヘーゲル哲学体系における物体論--プラトンとアリストテレスの統一としてのヘーゲル	現代社会文化研究		41	2008	131～148

小林 裕明	ヘーゲルの様相論理と時間性について	哲学	60		2008	41～54
佐藤 康邦	ヘーゲル美学における小説論の可能性(クロス討論 日本ヘーゲル学会VS日本シェリング協会)	ヘーゲル哲学研究		14	2008	180～181
嶋崎 隆	現代における新ヘーゲル主義の登場--言語論的転回とプラグマティズム的転回をめぐって	一橋社会科学		5	2008	1～49
清水 茂雄	「現実性」について	飯田女子短期大学紀要		25	2008	1～19
下城 一	ヘーゲルの『法哲学』--その成立の背景(2)イエスの生涯	横浜国立大学教育人間科学部紀要. 3, 社会科学		10	2008	45～70
杉田正樹・木村博	ヘーゲルを解釈するとは何をすることか	ヘーゲル論理学研究		14	2008	35～49
鈴木 一策	シェイクスピアの罠(4)終末論の影--ロレンスとヘーゲル	環	34		2008	266～277
鈴木 亮三	人間の変容と労働--ヘーゲルの労働論を手引きに(第57回[東北哲学会]大会研究発表論文)	東北哲学会年報		24	2008	43～58

住田 昌寛	ヘーゲル『精神現象学』における「承認」の概念について	中部哲学会年報		40	2008	67～77
瀬江 千史	南郷継正「武道哲学講義」のヘーゲル論は何を説くのか--主題は学問構築のための過程的構造論である	学城		5	2008	9～40
高田 純	承認・正義・再分配(上)ヘーゲル『法哲学』承認論の現代性	札幌大学総合論叢		26	2008	1～20
高田 純	承認と闘争と世界史(上)コジェーブのヘーゲル解釈の批判的検討	政治哲学		7	2008	165～176
高橋 一行	ロック所有論の射程	政経論叢	76	5・6	2008	349～376
竹花 洋佑	個体性と媒介--ヘーゲル概念論と"コプラの論理"としての西田・田辺哲学	立命館哲学	19		2008	39～57
竹島 あゆみ	自由への承認、承認への自由・二――抽象法における私・物・他者	岡山大学文学部紀要		50	2008	33～43
竹島 尚仁	哲学と掲示宗教―『精神現象学』における学の概念の正当化をめぐって	ヘーゲル論理学研究		14	2008	7～18

竹島 あゆみ	承認理論の現代性：ヘーゲル哲学新資料研究から出発して	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究(C)）			2008	103p
竹田 青嗣	時代を読み解く哲学者のキーワード(第11回)ヘーゲル(その2)	みやびブックレット		23	2008	34～40
竹田 青嗣	時代を読み解く哲学者のキーワード(第10回)ヘーゲル(その1)	みやびブックレット		22	2008	36～41
谷口 義治	定量と数について--ヘーゲルの教説の検討	唯物論と現代		40	2008	244～259
土屋 敬二	歴史の根拠について--ヘーゲルとアーペル	立命館文學		603	2008	339～350
徳増 多加志	推理と存在--ヘーゲル論理学に於ける推理論の基本的意味	哲学誌		50	2008	49～74
苫野 一徳	どのような教育が「よい」教育か--ヘーゲル哲学の教育学メタ方法論への援用（社会思想の最前線）	Ratio		5	2008	218～264
中島 秀憲	ヘーゲルはプロテスタントなのか?	九州産業大学国際文化学部紀要		39	2008	43～74
中西 博之	ヘーゲル哲学の生成と構造--精神概念の生成とその展開	純真紀要		49	2008	79～92

中野 眞	ヘーゲルの反省論の一解釈	論叢（東京大学哲学研究室）		27	2008	42～55
中村 勝己	《概念》の地中海紀行あるいはイタリアにおけるヘーゲル受容の100年(1)ベルトランド・スパヴェンタのヘーゲル解説論文(1851)を中心に	中央大学社会科学研究所年報		13	2008	115～143
尼寺 義弘	ヘーゲルにおける富と貧困の対立と社会的な調整機能--ポリツァイ論の分析（小特集 ヘーゲル法哲学と現代）	唯物論と現代		40	2008	124～139
西田 幾多郎	私の立場から見たヘーゲルの弁証法	西田幾多郎著『種々の哲学に対する私の立場：西田幾多郎論文選』（書肆心水）			2008	
野尻 英一	有機体と「地」のエレメント —ヘーゲル『精神現象学』の有機体論を解読する—（博士（学術）学位申請論文審査要旨 博士（学術）学位論文概要書）	ソシオ サイエンス		14	2008	251～262

野尻 英一	意識と地のエレメント試論	ヘーゲル哲学研究		14	2008	100～112
野村 卓史	ヘーゲル『精神現象学』における「内なるもの」と「悟性」	哲学	60		2008	13～25
濱 良祐	イェーナ後期におけるヘーゲルの「犯罪」の概念	同志社哲学年報		31	2008	87～103
濱井 潤也	ヘーゲル『法の哲学』における「主観性」について	哲学	60		2008	27～40
林 少陽	現代思想としての西脇の詩学理論--そのロマン主義とヘーゲル主義批判をめぐって	思想史研究		9	2008	74～100
早瀬 明	ロマン主義国家論の論理的基礎 前編—政治的ロマン主義の社会認識—	研究論叢（京都外国語大学）		70	2008	57～69
早瀬 明	ロマン主義国家論の論理的基礎 後編—政治的ロマン主義の社会認識—	研究論叢（京都外国語大学）		71	2008	147～166
原崎 道彦	ヘーゲル「精神現象学」饒舌訳の試み	高知大学教育学部研究報告		68	2008	35～117
原田 哲史	ヘーゲルとの対比におけるアダム・ミュラーの国家構想	シェリング年報		16	2008	56～61

樋口 善郎	ヘーゲルの矛盾論	大阪学院大学人文自然論叢		55・56	2008	15～35
平野 喜一郎	日本仏教の思考方法をヘーゲル論理学で読み解く--空海、親鸞、そして道元	唯物論と現代		40	2008	277～287
福吉 勝男	バイエルン改革とヘーゲルの国民主権論--二つの「近代国家」類型	思想		1008	2008	101～125
福吉 勝男	ヘーゲル「法・権利の哲学」の形成と展開に対するドイツ国制改革の影響に関する研究	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究(C)）			2008	84p
福吉 勝男	公共福祉哲学の現代的展望--ヘーゲルの〈Korporation〉と〈Kreis〉に関わって	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究		10	2008	15～30
古田 裕清	ヘーゲルの論理について--人間の尊厳という観点で	ドイツ文化		63	2008	1～27
干場 薫	ヘーゲル『精神現象学』における「われわれ」--リープルックスの「言語主体」との関連において	唯物論研究年誌		13	2008	373～399
牧野 広義	ヘーゲルにおける論理と現実	立命館文學		603	2008	328～338

松井 良和	若きヘーゲルにおける「自然」	論集（三重大学人文学部哲学・思想学系ほか）		13	2008	1～17
松山 壽一	ヘーゲル現象学の方法としての否定性--常識哲学と懐疑主義の関係について（『精神現象学』二〇〇年記念シンポジウム:『精神現象学』における否定的なもの）	ヘーゲル哲学研究		14	2008	41～55
松山 壽一	「ロマン主義とナショナリズム」司会報告（クロス討論 日本ヘーゲル学会VS日本シェリング協会）	ヘーゲル哲学研究		14	2008	177～179
三重野 清顕	ヘーゲル『論理学 本質論(一八一三)』における因果性と時間	ヘーゲル哲学研究		14	2008	137～148
水野 道夫	戦争をめぐる時空間構造について--フロイト、マルクス、ヘーゲルからナーガールジュナへ	社会科学ジャーナル		64	2008	143～166
宮野 升宏	空海の『十住心論』はヘーゲルの『精神現象学』と比較することができるか	比較思想研究		35	2008	32～35

村瀬 裕也	王夫之における存在の弁証法--ヘーゲル弁証法との比較考察	唯物論と現代		40	2008	260～276
山口 祐弘	ヘーゲルにおける哲学の始元—純粋知の境位と生成—	理想		680	2008	136～155
山口 祐弘	ヘーゲルにおける無限性の回復--有限なものへの眼差し	駒沢大学文化		26	2008	114～93
山口 祐弘	ヘーゲルとテトラレンマ--アジア的思惟への一視点	東京理科大学紀要. 教養篇		41	2008	17～32
山口 祐弘	ヘーゲルにおける哲学の始元--純粋知の生成と境位	理想		680	2008	136～155
山田 有希子	排中律とは何であるか--ヘーゲルを手がかりに	宇都宮大学教育学部紀要. 第1部		58	2008	137～148
山田 健二	ラッセルはヘーゲル主義者だったか（北海道哲学会・北大哲学会共催シンポジウム《ラッセル: 現代哲学への転回点としての》）	哲学年報		55	2008	41～53
寄川 条路	ヘーゲルとハイデガーの対決—否定を手がかりとして	ヘーゲル哲学研究		14	2008	28～40

寄川 条路	ヘーゲルとハイデガーの対決--否定を手がかりとして(『精神現象学』二〇〇年記念シンポジウム:『精神現象学』における否定的なもの)	ヘーゲル哲学研究		14	2008	28～40
伊坂 青司	「新しい神話」構想とキリスト教—シェリングとヘーゲルの分岐	シェリング年報		16	2009	43～47
石川 和宣	「時代と個人の精神的教養形成の転換点」としてのヤコービ:ヘーゲル哲学における「直接知」論の展開	宗教学研究室紀要		6	2009	54～88
稲垣 孝博	ウォルター・ペイターの批評精神とヘーゲルの影響	都留文科大學研究紀要	69		2009	35～48
岩井 洋子	ヘーゲルの団体論	哲学年誌		41	2009	19～42
鵜飼 哲	デリダにおけるヘーゲル--『弔鐘』における〈晩餐〉の記号論を中心に(シンポジウムヘーゲルとフランス現代思想)	ヘーゲル哲学研究		15	2009	61～71
海老澤 善一	ヘーゲルの無限概念(1)	愛知大学文学論叢		140	2009	1～28
大田 孝太郎	ヘーゲルの教養論	広島経済大学研究論集	32	3	2009	1～25

太田 徹・高橋 一行	論理学が三部構成である理由をめぐって	ヘーゲル論理学研究		15	2009	19～38
太田 信二	01/02年における倫理学についてのヘーゲルの講義と思惟と存在との同一性の見地--トロックスラーのノートから見て	國學院短期大学紀要	26		2009	47～65
大竹 信行	ヘーゲル法哲学における「婚姻」について : カント婚姻論の批判と克服	生活科学研究		31	2009	319～323
小坂田 英之	ヘーゲルにおける「弁証法」の成立——反省概念によるトリアーデの構築	ヘーゲル哲学研究		15	2009	106～115
堅田 剛	三月前期の法思想—サヴィニーとグリム,そしてヘーゲルとガンス (ドイツ人文主義の諸相--近代的学知の淵源を探って)	思想		1023	2009	8～29
堅田 剛	ヘーゲルの〈法哲学講義〉—三月前期の思想史として	独協法学		79	2009	47～81
勝 道興	至高と裂傷—バタイユによるニーチェ/ヘーゲル	関西大学哲学		27	2009	27～50

加藤 尚武	エンゲルハルト論文の吟味	ヘーゲル論理学研究		15	2009	63～71
川本 隆	フォイエルバッハとヘーゲルの差異--ライプニッツ解釈をめぐって	ヘーゲル哲学研究		15	2009	129～141
北村 実	ヘーゲル『精神現象学』と若きマルクス	ヘーゲル論理学研究		15	2009	7～17
久保 陽一	国際シンポジウム「ヘーゲルの体系の見直し」の報告（国際シンポジウムヘーゲル体系の見直し）	ヘーゲル哲学研究		15	2009	41～49
黒崎 剛	アドルノのヘーゲル批判はなぜ成功しなかったのか--「精神」と「社会的労働」の概念をめぐって	日本医科大学基礎科学紀要		39	2009	1～13
黒島 俊昭	ヘーゲル『法の哲学』における「教養」を通じての個人と国家との一体性	哲学年誌		41	2009	43～65
子安 宣邦	和辻倫理学とは何か(第7回)人間共同体という倫理学の語り--和辻におけるヘーゲルとは何か	現代思想	37	13	2009	18～25

今野 雅方	コジェーヴのヘーゲル論——ヘーゲルの人間学は世俗化されたキリスト教神学か（シンポジウム ヘーゲルとフランス現代思想）	ヘーゲル哲学研究		15	2009	50～60
佐藤 真一	ランケとヘーゲル	国立音楽大学研究紀要		44	2009	132～122
塩見 剛一	K.ローゼンクランツの教育学体系について--ヘーゲル教育論の体系化として	関西教育学会年報		33	2009	16～20
篠原 敏雄	市民法学における「市民」と「市民社会」の基礎法学的考察--ルソー,カント,ヘーゲルの思想との関連で（特集 市民社会論の法律学的射程）	社會科學研究	60	5・6	2009	45～80
柴田 滋	ヘーゲルの近代国家観と現代社会法--ヘーゲル市民社会論・社会政策論・国家論の歴史的被制約性と現代社会保障法論における発展的継承	国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要	5		2009	19～47

清水 茂雄	ヘーゲル『論理学』における「必然性の判断」について	飯田女子短期大学紀要		26	2009	1～12
高田 純	欲望と歴史の終焉とをめぐって（シンポジウムヘーゲルとフランス現代思想）	ヘーゲル哲学研究		15	2009	83～86
高田 純	承認・正義・再分配(下)ヘーゲル『法哲学』承認論の現代性	札幌大学総合論叢		28	2009	1～36
高田 純	承認・正義・再分配(中)ヘーゲル『法哲学』承認論の現代性	札幌大学総合論叢		27	2009	1～21
高田 純	承認の闘争と世界史(下)コジェーヴのヘーゲル解釈の批判的検討	政治哲学		8	2009	67～77
高橋 一行	ヘーゲルの所有論(上)	政経論叢	77	3・4	2009	339～364
高橋 一行	ヘーゲルの所有論(下)	政経論叢	77	5・6	2009	809～835
高橋 一行	ヘーゲルの所有論	ヘーゲル論理学研究		15	2009	39～46
竹島 あゆみ	「政治的なもの」をめぐって--ヘーゲルとカール・シュミット	岡山大学文学部紀要		52	2009	5～15
竹島 あゆみ	自由への承認、承認への自由(3)ヘーゲル『法の哲学』抽象法における契約と不法	岡山大学文学部紀要		51	2009	33～42

竹村 喜一郎	ヘーゲルの弁証法と西田幾多郎	筑波哲学		17	2009	1～27
徳増 多加志	条件と絶対的なものの構造--ヘーゲル論理学に於ける根拠の一問題	鎌倉女子大学紀要		16	2009	1～12
苫野 一徳	教育的経験=「成長」の指針の解明素描--ヘーゲル哲学のデューイ経験哲学への援用	日本デューイ学会紀要		50	2009	91～105
中野 眞	ヘーゲルの反省論における「差異性」の構造	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集		28	2009	9～22
中畑 邦夫	ヘーゲル論理学における神の存在証明の意義	ヘーゲル哲学研究		15	2009	116～128
中畑 邦夫	ヘーゲルによる「神の定在の存在論的証明」について	上智哲学誌		21	2009	1～13
中畑 邦夫	悟性の限界としての偶然性--ヘーゲルによる様相論における偶然性の意義	麗沢学際ジャーナル	17	2	2009	15～27
中畑 邦夫	矛盾の「存在」?矛盾の「現われ」?--ヘーゲルの矛盾論をめぐって	麗沢大学紀要		89	2009	71～87

尼寺 義弘	ヘーゲルの「政治経済学」(特集 哲学思想と経済学)	経済科学通信		120	2009	19～22
尼寺 義弘	ヘーゲル政治経済学序説	経済論集		180	2009	103～126
西山 雄二	二〇世紀フランス思想とヘーゲル受容 (シンポジウム ヘーゲルとフランス現代思想)	ヘーゲル哲学研究		15	2009	72～82
野村 卓史	ヘーゲル『精神現象学』における理性の観察経験--非有機体と有機体をめぐって	哲学(広島哲学会)	61		2009	29～42
硲 智樹	ヘーゲル1805/06年の精神哲学における闘争論の三つのモチーフ	哲学(広島哲学会)	61		2009	1～13
濱井 潤也	ヘーゲル『法の哲学』における「契約」と「社会契約説」	哲学(広島哲学会)	61		2009	15～28
早瀬 明	ロマン主義国家論の論理的基礎—アダム・ミュラーに於ける政治的対立の媒介	シェリング年報		16	2009	62～67
早瀬 明	旧帝国の政治的伝統とドイツ国家の再生—国家滅亡に臨んでフィヒテとヘーゲルが考えたこと	理想		682	2009	48～59

早瀬 明	神聖ローマ帝国の政治的伝統とフィヒテの『ドイツ国民に告ぐ』--ヘーゲルの『ドイツ国制論』との比較	京都外国語大学研究論叢		73	2009	35～51
早瀬 明	旧帝国の政治的伝統とドイツ国家の再生--国家滅亡に臨んでフィヒテとヘーゲルが考えたこと(特集 国家論への寄与)	理想		682	2009	48～59
E..F.ﾌｪﾉﾛｻ	フェノロサ(阪谷芳郎筆記)講義「哲学史—ヘーゲル論」(守津隆・山口誠一訳)	『ヘーゲル哲学研究』(こぶし書房)		15	2009	p171～159(巻末)
星 敏雄	家族・社会・国家--ヘーゲルとアレント	二松学舎大学国際政経論集		15	2009	197～204
牧野 廣義	ヘーゲル論理学における主体の概念	阪南論集 人文・自然科学編	44	2	2009	1～13
松下 晴彦	「統一性」の希求と「方向性なき成長」不安--ヘーゲル的残滓と進化論的自然主義(デューイ教育思想の弱点)	日本デューイ学会紀要		50	2009	205～213

丸山 珪一	Portfolio 研究のための序説 ルカーチの博士論文「若きヘーゲル」とその審査--モスクワ・1942年	アリーナ		7	2009	531～540
三重野 清顕	ヘーゲルにおける時間と想起--『精神の現象学』序論を導きの糸として	倫理学紀要	17		2009	72～86
宮野 升宏	空海の『十住心論』とヘーゲルの『精神現象学』	峰島旭雄先生傘寿記念論文集編集委員会編『「いのち」の流れ：峰島旭雄先生傘寿記念論文集』（北樹出版）			2009	
山内 廣隆	ヘーゲル政治哲学の現代的意義	政治哲学		8	2009	41～66
山口 祐弘	ヘーゲルにおける論理学の理念--カント哲学の形而上学的継承	東京理科大学紀要. 教養篇		42	2009	299～318
山口誠一	クラウス・フィーベーク「像を支配する柔らかい力—構想力についてのヘーゲルの哲学的構想」解説	『理想』		682	2009	p167～169

山中 速人	ヘーゲルを生んだドイツがなぜヒトラーにだまされたのか(特集 考える--メディア)	金曜日	17	22	2009	17～21
山脇 雅夫	演劇的知識論の基礎付け——『精神の現象学』「緒論」における知の構造——	ヘーゲル哲学研究		15	2009	96～105
山脇 雅夫	ヘーゲルの教育観--ルソーとの比較を中心に	高野山大学大学院紀要		11	2009	1～4
吉田 浩	M・ウェーバーの『価値自由』(Wertfreiheit)論の批判的検討--ヘーゲル、マルクスの所説との比較・対照において	社会科学研究		22	2009	1～86
吉田 裕	死と歴史をめぐる二重奏--ヘーゲルを読むバタイユ(2)	人文論集（早稲田大学法学会）		48	2009	95～129
寄川 条路	Hegel and Japan: an intercultural perspective	愛知大学文学論叢		140	2009	110～99
荒木正見	貝原益軒とヘーゲルの存在論	比較思想論輯		18	2010	p27～34
荒又重雄	ヘーゲル論理学の端緒におかれた諸概念について	唯物論		54-55	2010	p32～41
石川和宣	ヘーゲル祭祀論の射程	宗教研究	4	83	2010	p1347～1348

岩田康弘	転倒された世界―ヘーゲル『精神現象学』における意識から自己意識への移行―	哲学（広島哲学会編）		62	2010	p57～69
海老澤善一	微分―ヘーゲルの無限概念（２）―	愛知大学文学論叢		142	2010	p1～27
大田孝太郎	ヘーゲル『精神現象学』の成立と方法の問題	広島経済大学研究論集	1	33	2010	p1～20
大橋　基	ヘーゲルの二つの倫理学―客観的義務論と徳倫理学―	哲学年誌		42	2010	p67～84
大藪敏宏	道徳と偶然―ヘーゲルの道徳的行為論と福祉の論理学と社会学的行為論―	言語と文化（法政大学言語・文化センター編）		7	2010	p145～168
小川英司	行為と倫理（３）第２章 ヘーゲルにおける「欲求の体系」―市民社会はいかに維持されがたいか―	福祉社会学部論集（鹿児島国際大学福祉社会学部）	1	29	2010	p2～16
小坂田英之・高橋一行（共著）	ヘーゲルの所有論―知的財産論の可能性	ヘーゲル論理学研究		16	2010	p47～60
小坂田英之	武市健人の弁証法論理	ヘーゲル哲学研究		16	2010	p106～115
門脇　健	霊はどこを徘徊するか―カント シラーそしてヘーゲルの場合―	宗教研究（日本宗教学会編）	2	84	2010	p255～281

勝田吉太郎	ヘーゲルのしつけ論	じゅん刊世界と日本（特集　勝田吉太郎論考集時流を読む（上））		1155	2010	p41～44
加藤尚武	アメリカに登場したヘーゲル主義	未来		524	2010	p30～33
神山伸弘	ヘーゲルによる〈インドの天文学〉理解—『歴史哲学』1822/23年「世界史の哲学」講義	グリースハイム・ノートの差異—跡見学園女子大学紀要		45	2010	p11～42
川太啓司	ヘーゲル論理学における「端初」の概念	日本大学大学院総合社会情報研究科紀要		10	2010	p355～364
栗原　隆	三宅剛一とヘーゲル弁証法（シンポジウム　弁証法の日本への移入と無限性把握）			16	2010	p116～125
黒崎　剛	ヘーゲル・未完の弁証法—『精神現象学』における「意識の経験の学」の試みの意義とその挫折の原因についての研究（博士論文・早稲田大学）				2010	
小井沼広嗣	公共性としての「事そのもの」—ヘーゲル行為論の社会哲学的意義—	アジア太平洋レビュー		7	2010	p41～53

小井沼広嗣	行為と赦し―アレント政治思想を介したヘーゲル「良心」論の一考察―	法政哲学（法政哲学会編）		6	2010	p41～53
小島優子	ヘーゲル『精神現象学』における言葉の意義の考察	駒澤大学文化		28	2010	p154～172
小島優子	ヘーゲルにおける「想起」の思想について	国學院雑誌	11	111	2010	p44～62
座小田豊	ヘーゲル哲学における神の思想―「自由」概念の根本にあるもの―	フィロソフィア・イワテ		42	2010	p37～50
佐藤康邦	『判断力批判』とヘーゲルの間で	ヘーゲル哲学研究		16	2010	p3～7
塩見剛一	K・ローゼンクランツの教育の一般的概念について―ヘーゲル教育論の体系化として―	関西教育学会年報		34	2010	p21～25
下城　一	ヘーゲルの『法哲学』―その成立の背景（3）ヘルダーリン―	横浜国立大学教育人間科学部紀要・3・社会科学		12	2010	p15～36
砂山雄二	若き黒田の唯物論的主体性論（上）『ヘーゲルとマルクス―技術論と史的唯物論・序説』に学ぶ	新世紀		246	2010	p170～199

砂山雄二	若き黒田の唯物論的主体性論（下）『ヘーゲルとマルクス—技術論と史的唯物論・序説』に学ぶ	新世紀		247	2010	p192～207
高藤大樹	ヘーゲル美学における風景概念についての一考察—「近代」との関係を顧慮して—	美学芸術学		26	2010	p44～61
高橋一行	カント平和論vs.ヘーゲル戦争論—東アジア共通政府論に向けて—（沖縄国際大学沖縄法政研究所第24回講演会質疑応答）	沖縄法政研究		13	2010	p195～226
高橋一行	カント平和論vs.ヘーゲル戦争論	政経論叢		78	2010	p291～324
高橋義人	ヘーゲルとグノーシス	立命館哲学（立命館大学哲学会編）		21	2010	p1～39
滝口清栄	ヘーゲル法哲学研究—回顧と展望—	法政哲学（法政哲学会編）		6	2010	p1～14
竹島あゆみ	自由への承認　承認への自由（4）ヘーゲル『法の哲学』における道徳性	岡山大学文学部紀要		53	2010	p15～21
竹島尚仁	ヘーゲルの言う「矛盾」（1）『論理学』における矛盾の分析	岡山大学大学院社会文化科学研究紀要		30	2010	p333～341

田村伊知朗	初期ブルーノ・バウアー純粋批判に対する周辺ヘーゲル左派による基礎づけ	北海道教育大学紀要・人文科学・社会科学編	1	61	2010	p99～109
竹島あゆみ	「承認」をめぐって―ヘーゲルとテイラー（1）―	文化共生学研究		9	2010	p29～39
徳増多加志	ネオ・プラグマティズムとヘーゲル哲学―認識論的枠組みの解消と全体論の可能性―（シンポジウム ドイツ古典哲学と（ポスト）分析哲学―対立から融合へ―）	ヘーゲル哲学研究		16	2010	p82～92
中畑邦夫	ヘーゲルの実体論を理解するために―スピノザの実体論への批判から見えてくるもの―	麗沢大学紀要		90	2010	p185～199
中畑邦夫	絶対者の叙述としてのヘーゲル論理学	麗沢学際ジャーナル（麗沢大学経済学会編）	1	18	2010	p13～23
中山　愈	法の哲学に見るヘーゲルとサヴィニーの内なる論争	近畿医療福祉大学紀要	1	11	2010	p39～55

尼寺義弘	ヘーゲルの「理性の狡知」論―労働手段の究明によせて―	阪南論集・社会科学編	3	45	2010	p347～356
硲　智樹	ヘーゲル国家論の形而上学的背景	政治哲学		9	2010	p43～61
硲　智樹	歴史的目的論としてのヘーゲル歴史哲学？	哲学（広島哲学会編）		62	2010	p29～41
早瀬　明	近代社会思想に於ける神と悪魔―マンデヴィルスミスとヘーゲル―	『研究論叢』（京都外国語大学）		74	2010	
早瀬　明	1822/23年の歴史哲学講義に於けるヘーゲルのゾロアスター教理解（その1）歴史的背景と資料源泉	京都外国語大学研究論叢		75	2010	p49～61
干場　薫	ヘーゲル『精神現象学』における弁証法的経験	唯物論（東京唯物論研究会編）		84	2010	p94～108
牧野広義	ヘーゲル論理学講義1831年における「主体」と「自由」	阪南論集・社会科学編	3	45	2010	p357～368
牧野広義	古典を読み解く（２）ヘーゲル『論理学講義1831年』について	経済科学通信		124	2010	p105～110

松井良和	ヘーゲルにおける体系の始元	論集／三重大学人文学部哲学・思想学系（三重大学教育学部哲学・倫理学教室編）		14	2010	p1～16
松岡健一郎	ヘーゲル論理学における「悪無限」の諸相	ヘーゲル哲学研究		16	2010	p139～151
松下晴彦	デューイ哲学における「永遠のヘーゲル的残滓」―初期デューイ思想とヘーゲル主義	名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要	2	57	2010	p1～10
山口誠一	ヘーゲル『精神現象学』「序説」第５節・第６節の解明	法政大学文学部紀要		62	2010	p31～41
吉田　寛	聴覚の座をめぐる近代哲学の伝統―ヘルダー　カント　ヘーゲルの場合―美学（美学会編）		1	61	2010	p25～36
吉田　裕	死と歴史をめぐる二重奏（１）ヘーゲルを読むバタイユ	Azur.		11	2010	p53～72
寄川条路	絶対無から宗教へ―ヘーゲルから後期シェリングへ―	愛知大学文学論叢		141	2010	p1～16

赤石憲昭	ヘーゲル『法哲学』のアクチュアリティーをどう考えるか？（シンポジウム　法哲学の現代的可能性）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p122～127
荒木正見	認識の原初としてのヘーゲルの感覚論（シンポジウム　ヘーゲルにおける哲学知の展開）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p24～35
荒木正見	福岡支部第八七回大会ヘーゲルの感覚論	比較思想研究（比較思想学会編）		38（別冊）	2011	pp.42~45.
荒木正見	福岡支部第八八回大会貝原益軒とヘーゲル―存在論的構造比較―	38（別冊）			2011	pp.46~48.
有馬麻理亜	それはわたしであったから―ブルトンとバタイユの対峙を可能にした場としてのヘーゲル―	水声通信	1	7	2011	p221～232
海老澤善一	形而上学と弁証法―ヘーゲルの無限性概念（３）―	愛知大学文学論叢		144	2011	p1～29

大河内泰樹	近代社会の病理とコミュニケーション的自由―A・ホネットのヘーゲル『法哲学』解釈―（シンポジウム　法哲学の現代的可能性）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p106～114
大野木博基	『精神現象学』における「自己意識」への移行について―R・ブランダムのヘーゲル理解を手掛かりに―	哲学（広島哲学会編）		63	2011	p17～30
面　一也	理念なきリベラリズム―A・ホネット『自由であることの苦しみ』におけるヘーゲル解釈への懐疑―（シンポジウム　法哲学の現代的可能性）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p115～121
笠松幸一	デューイ・プラグマティズムにおけるヘーゲル哲学批判―「哲学の再構成」に着目して―	精神科学（日本大学哲学研究室編）		49	2011	p15～39
加藤尚武	ヘーゲルとマルクス	情況	11	11	2011	p6～25
門脇　健	ヨーロッパのシャーマニズム　死者の声を聴くヘーゲル	アジア遊学		141	2011	p203～216

神山伸弘	ヘーゲル「世界史の哲学」講義（1822/1823年）インド論の資料源泉をめぐるノート	跡見学園女子大学人文学フォーラム		9	2011	p176～189
川田啓司	ヘーゲルにおける概念的把握と追思考	日本大学大学院総合社会情報研究科紀要		11	2011	p279～288
川本　隆	ヘーゲルとフォイエルバッハを分かつもの―汎神論と理性の理解を巡って―	東洋大学大学院紀要・文学（哲学）		48	2011	pp.71~84.
城戸　淳	学問と理性―啓蒙主義からカントへ―（シンポジウム　啓蒙からの流れの中でのヘーゲル）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p91～101
金　泰明	共に生きようとする欲望―ヘーゲルの相互承認の原理―（第18回人権を哲学する）	ヒューマンライツ		285	2011	p56～59
熊谷征一郎	「存在と無の同一」としての「生成」をめぐって―西田によるヘーゲル生成論批判の妥当性と意義―	日本哲学史研究（京都大学大学院文学研究科日本哲学史研究室紀要）		8	2011	p73～98

熊谷征一郎	東京地区二〇一一年度第三回研究例会　西田とヘーゲル―潜在・顕現をめぐって―	比較思想研究（比較思想学会編）		38（別冊）	2011	pp.16~19.
黒崎　剛	ヘーゲル『精神現象学』における「道徳性」の役割について―「相互承認」によって意識と対象との対立を解決する試みとその帰結―	日本医科大学基礎科学紀要		40	2011	p35～54
佐山圭司	ヤコービとヘーゲル―フランクフルト期ヘーゲルの隠れた思想的源泉―	哲学（日本哲学会編）		62	2011	p267～281
下城　一	ヘーゲルの『法哲学』―その成立の背景（4）『キリスト教の本質とその運命』（1）	横浜国立大学教育人間科学部紀要・3・社会科学		13	2011	p41～62
頭川　博	ヘーゲルの反射規定と『資本論』	高知論叢／社会科学		100	2011	p39～53
杉田孝夫	啓蒙思潮とドイツ観念論期の政治思想―共和制をめぐる言説に着目して―（シンポジウム　啓蒙からの流れの中でのヘーゲル）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p66～80

杉田正樹	言語から見たヘーゲル哲学（1）	関東学院大学人間環境学会紀要		15	2011	p3～18
高橋紀穂	否定性の二重性―バタイユによるヘーゲル―	太成学院大学紀要		30	2011	p213～224
高橋一行	知的所有論―ジジェクのヘーゲル解釈を巡って―	社会理論研究（社会理論研究編集委員会編）		12	2011	pp.129~148.
高柳良治	ドイツ古典哲学における結婚と家族（下）	国学院経済学	2	59	2011	
高山　守	「絶対的な自由」をめぐって	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		17	2011	pp.5~9.
竹島尚仁	ヘーゲルの言う矛盾（2）『論理学』における矛盾の分析	岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要		31	2011	p227～235
苫野一徳	公教育の「正当性」原理の解明―ヘーゲル哲学の教育・社会構想のためのメタ方法論への応用―	教育哲学研究		103	2011	p123～129
中川玲子	普遍知としての知覚に対するヘーゲルの批判―『精神現象学』「知覚」章を中心として―	アルケー・関西哲学会年報		19	2011	p146～157

長島　隆	知恵と知識—「実践知」あるいは看護知について、アリストテレスとヘーゲルに即して	人間科学研究会　生と死（東洋英和女学院大学大学院人間科学（死生学）勉強会）			2011	pp.10~22.
野尻有香	ヘーゲル哲学における自然の位置—不完全な精神としての自然—	哲学世界（別冊）（早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻哲学コース）		3	2011	pp.107~117.
野村卓史	ヘーゲル『精神現象学』研究—「絶対知」の解明—（博士論文・広島大学）				2011	
硲　智樹	精神の教養形成における否定の契機としての訓育について	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p137～149
濱　良祐	ヘーゲル『精神現象学』における「人倫」と「行為」	政治哲学（政治哲学研究会）		11	2011	p142～157
濱　良祐	フィヒテとヘーゲルにおける「承認」と自由	フィヒテ研究		19	2011	p71～84
濱　良祐	ヘーゲル「イエナ精神哲学草稿Ⅱ」（一八〇五／〇六年）における自由の概念	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p150～162

早瀬　明	1822/23年の歴史哲学講義に於けるヘーゲルのゾロアスター教理解（その２）Creuzerの解釈の影響（１）	京都外国語大学研究論叢		76	2011	p43～56
樋口　聡	ヘーゲル哲学とスポーツ論の可能性	思想		1050	2011	p50～65
平尾昌宏	二つのスピノザ論争―啓蒙思潮とドイツ観念論における宗教思想―（シンポジウム　啓蒙からの流れの中でのヘーゲル）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p81～90
E..F.ﾌｪﾉﾛｻ	フェノロサ講義「哲学史―ヘーゲル論（清澤満之筆記）」（上）（山口誠一・守津隆訳）	『ヘーゲル哲学研究』(こぶし書房)		17	2011	
福田静夫	ヘーゲル「教授資格討論テーゼ Praemissae theses」―「イエナ期」ヘーゲル哲学の内発的位相―	現代と文化・日本福祉大学研究紀要		122	2011	p1～43
牧野広義	ヘーゲル『小論理学』「予備概念」の意義	唯物論と現代（関西唯物論研究会編）		47	2011	pp.40~53.

枡岡大輔	「無限性Unendlichkeit」の考察―『精神現象学』を中心に―	アジア太平洋レビュー（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター編）		8	2011	pp.53~64.
松岡健一郎	ヘーゲル『大論理学』における「無限性」と「矛盾」の循環	アルケー・関西哲学会年報		19	2011	p181～190
松岡健一郎	ヘーゲル論理学の「無限性」理論（博士論文・同志社大学）				2011	
嶺　秀樹	絶対無の自覚と弁証法―西田の行為的自己の立場から見たヘーゲル弁証法の基盤―	関西学院哲学研究年報（関西学院大学哲学研究室編）		45	2011	pp.1~41.
諸岡道比古	シェリングとヘーゲルにおける神について	宗教研究	4	84	2011	p1079～1080
安川奈緒	ジョルジュ・バタイユにおける「否定性」と「承認」の問題―第二次大戦以前のヘーゲル読解を通して―	仏文研究（京都大学フランス語フランス文学研究会編）		42	2011	pp.77~97.
山口祐弘	存在の無規定性と差異の領域―ドイツ観念論の内部論争とヘーゲル―	ヘーゲル論理学研究		17	2011	

山口祐弘	反省哲学と哲学的反省—ヘーゲルにおける反省思想の展開—（シンポジウム　ヘーゲルにおける哲学知の展開）	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p50～60
山口誠一	フェノロサ講義「哲学史」新資料をめぐって—Gedanke(思想)の問題—	『法政大学文学部紀要』		63	2011	p1～　13
山田有希子	ヘーゲル論理学における「矛盾」の概念とカントのアンチノミー論批判	ヘーゲル哲学研究		17	2011	p163～177
山田忠彰	ヘーゲルにおける構想力の行方—ドイツ観念論における展開を顧慮して—	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		17	2011	pp.36~49.
吉田　達	偏狭なまじめさから個の深みへ—ヘーゲル『精神現象学』における〈集約するロゴス〉素描—	中央大学論集		32	2011	p1～14
芦立一義	フーコーにおけるヘーゲル主義からの離脱の試み—『狂気の歴史』と戦争の問題化をめぐって—	国際文化研究紀要（横浜市立大学大学院国際文化研究紀要編集委員会編）		18	2012	pp.127~154.

池松辰男	精神の闇夜—ヘーゲルにおける〈想起なき内化〉と〈内的なもの〉の意味—	倫理学紀要（東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室編）		20	2012	pp.1~25.
板橋勇仁	ヘーゲルとショーペンハウアー—インド思想と無および否定をめぐって（哲学対話 ヘーゲルとショーペンハウアー）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.88~101.
伊藤貴雄	ヘーゲルとショーペンハウアー—根拠律の社会哲学	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.102~114.
植村恒一郎	言語の肉体性—ヘーゲル『論理学』における判断論と推理論—	哲学雑誌（哲学会編）	127	799	2012	pp.22~39.
海老澤善一	存在のはかなさ—ヘーゲルの無限概念（4）—	愛知大学文學論叢		145	2012	pp.1~28.
海老澤善一	現実との和解—ヘーゲルの無限概念（5）—	愛知大学文學論叢		146	2012	pp.1~33.
大石雄爾	普通の理解力で読むヘーゲル論理学の「本質-現象」論（1）	駒澤大学経済論集	43	3・4	2012	pp.81~91.
大河内泰樹	合理性の階梯—R・ブランダムにおけるヘーゲル主義への一視覚—	一橋社会科学		4	2012	pp.1~12.

大野木博基	ヘーゲル「差異論文」における超越論的直観	哲学（広島哲学会編）		64	2012	pp.57~70.
大平道広	文献研究 チャールズ・コヴェル『政治思想史における国際法：ビトリアからヘーゲルまで』	立教大学大学院法学研究		43	2012	pp.37~43.
小田部胤久	「無意識」をめぐるヘーゲルとロマン主義—美学（史）の立場から（シンポジウム　ヘーゲルとロマン主義）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.46~57.
角田幸彦	精神史の光の中のブルクハルト—プラトン、ヴィーコ、ヘーゲル、モムゼン、クーグラー、シュナーゼとつなげて—	明治大学教養論集		477	2012	pp.1~56.
片上平二郎	アルチュセールのヘーゲル批判と複数形という戦略	立教比較文明学紀要		12	2012	pp.41~61.
神山伸弘	オリエントの事実認識から紡ぎ出される実体性の内部プロセス—ヘーゲルのオリエント論がもつ特質の資料源泉からみた全体像—	跡見学園女子大学文学部紀要		47	2012	pp.15~22.

川瀬和也	ヘーゲルにおける概念の客観性と「所与の神話」	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集		31	2012	pp.141~154.
川瀬和也	ヘーゲル『大論理学』の目的論と心身二元論	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.140~152.
木田　元	哲学散歩（第12回）ライヴァルたち—シェリングとヘーゲル—	文學界	66	5	2012	pp.208~211.
木元麻里	レヴィナスにおけるポスト・ヘーゲル的思考—コジェーヴとの対照を手がかりに—	明星大学研究紀要・人文学部・日本文化学科		20	2012	62~76.
栗原　隆	スピノザにおける無限性とヘーゲルにおける自己関係（哲学対話　ヘーゲルとスピノザ）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.62~76.
権左武志	ヘーゲルのロマン主義批判—受容から克服へ—（シンポジウム　ヘーゲルとロマン主義）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.33~45.
斉藤幸平	労働と思想（17）—恣意と暴力から連帯と承認へ—	Posse		17	2012	pp.210~223.

佐藤康邦	カント、ヘーゲル哲学の中での死生観（公開シンポジウム「生と死」）	日独文化研究所年報		4	2012	pp.102~107.
佐山圭司	愛はこの世の対立を和解しうるか―青年ヘーゲルの「愛の倫理」―	北海道教育大学紀要人文科学・社会科学編	63	1	2012	pp.77~85.
塩見剛一	K・ローゼンクランツの教育の特殊的要素について―ヘーゲル教育論の体系化として―	関西教育学会年報		36	2012	pp.6~10.
下城　一	ヘーゲルの『法哲学』―その成立の背景（５）『キリスト教の精神とその運命』（２）	横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅲ社会科学		14	2012	pp.17~49.
下田和宣	直接性と媒介―ヤコービ-ヘーゲル関係の再検討―	宗教哲学研究		29	2012	pp.100~102.
下田和宣	後期ヘーゲルの方法理念としての「追思惟」	哲学		63	2012	pp.217~232.
高藤大樹	フェノロサの美術史構想における一源泉―フェノロサのヘーゲル理解に関する一考察―	Lotus（日本フェノロサ学会編）		32	2012	pp.27~42.

高藤大樹	「近代」における「晴朗さ」の獲得―ヘーゲルの芸術哲学における「フモール」概念について―	文化学年報		61	2012	pp.433~452.
高柳良治	ヘーゲルの所有論とマルクス	国学院経済学	60	3・4	2012	pp.847~869.
竹島あゆみ	法とその外部（1）ヘーゲルにおける「法」と「その外部」	文化共生学研究		11	2012	pp.25~34.
竹島あゆみ	自由への承認、承認への自由（5）ヘーゲル『法の哲学』道徳性における善と良心	岡山大学文学部紀要		57	2012	pp.1~10.
竹村喜一郎	ヘーゲル本質論における反省理論の構造	筑波哲学（筑波大学哲学研究会編）		20	2012	pp.1~21.
長　華子	愛国心の政治哲学的基礎づけを求めて―ケルゼン、アリストテレス、バーク、ヘーゲルの国家観の比較検討―	人間幸福学研究	4	2	2012	pp.118~159.
土屋敬二	ヘーゲルと哲学の根拠づけ	立命館文學		625	2012	pp.1001~1013.

中野泰治	クエーカー研究における新ヘーゲル主義的前提について—self概念を巡るバークレー神学に関する評価—	ピューリタニズム研究		6	2012	pp.27~39.
中村　元	ヘーゲルとシェリングにおけるインド神話理解—「トリムールティ」解釈をめぐって—	帝京大学宇都宮キャンパス研究年報人文編		18	2012	pp.121~137.
硲　智樹	ヘーゲル哲学における時間の問題—「具体的現在」の解釈をめぐって—	哲学（広島哲学会編）		64	2012	pp.29~41.
長谷川裕寿	刑事不法のうちにある〈承認〉—ヘーゲル承認論を手掛かりとして—	駿河台法学	25	2	2012	pp.341~376.
服部高宏	現代の法思想を支える碩学たち（第13回）近代ドイツの理性法論—カントとヘーゲル—	法学教室		379	2012	pp.31~33.
羽鳥剛史・渡辺　望・藤井　聡・竹村和久	ヘーゲル「人間疎外」とオルテガ「大衆」との関連についての実証分析	人間環境学研究	10	2	2012	pp.99~107.

濱　良祐	ヘーゲル『精神現象学』における「自己意識」と「承認」	哲学論究（同志社大学哲学会編）		26	2012	pp.45~61.
福吉勝男	自由独立の精神―福沢諭吉とヘーゲル―	思想		1055	2012	pp.62~90.
牧野廣義	ヘーゲルにおける論理学・形而上学・方法論	阪南論集人文・自然科学編	47	2	2012	pp.5~16.
松岡健一郎	ヘーゲル『大論理学』「定在」章の構造転換―	同志社哲学年報		35	2012	pp.75~92.
松岡健一郎	『大論理学』第二版における「真無限」の概念	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.115~127.
松下晴彦	19世紀アメリカ教育思想黎明期におけるヘーゲル主義―セントルイス哲学協会の運動を中心に―	アメリカ教育学会紀要		23	2012	pp.15~26.
松村健吾	ヘーゲルのイエナ時代の住居について	大東文化大学紀要・人文科学		50	2012	pp.85~101.
水野建雄	国家と理性―「法の哲学」新講義録をめぐって―	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.5~9.
嶺　秀樹	西田哲学とヘーゲル弁証法	アルケー（関西哲学会編）		20	2012	pp.54~67.

嶺岸佑亮	概念の主体性における個と普遍の本質について―ヘーゲル論理学における「概念の人格性」をもとにして―	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.128~139.
嶺岸佑亮	ヘーゲル論理学における概念の自己生成と定立について	東北哲学会年報		28	2012	pp.77~91.
宮田眞治	イエナ・ロマン主義における〈能動・受動〉モデルの問題（シンポジウム　ヘーゲルとロマン主義）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.19~32.
山内志朗	近世形而上学との関連から見たスピノザの実体概念（哲学対話　ヘーゲルとスピノザ）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		18	2012	pp.77~87.
山崎行太郎	山崎行太郎の「月刊・文芸時評」（第98回）ヘーゲルとマルクス―唯物論的転倒の哲学―	月刊日本	16	8	2012	pp.98~101.

山里理一	科学的社会主義の古典入門講座フォイエルバッハ論のすゝめ（第二回）ヘーゲルの弁証法とフォイエルバッハの唯物論	学習の友（労働者教育協会編）		705	2012	pp.82~87.
山本善晴	ヘーゲルのテキストによる心理臨床の声の意義の検討	研究紀要（関西国際大学編）		13	2012	pp.125~137.
荒川幸也	『ヘーゲル国法論批判』（1843年）―マルクスのヘーゲル批判と反ドグマ主義―	李報唯物論研究		124	2013	pp.40~51.
荒木夏乃	和辻哲郎における善悪観と男女間の関係―ヘーゲルの良心論を手掛かりに―	道徳と教育（日本道徳教育学会編）		57	2013	pp.12~21.
池松辰男	承認の条件としての身体―ヘーゲル「人間学」における〈身体〉の意義―	倫理学年報（日本倫理学会編）		62	2013	pp.149~163.
池松辰男	精神と機械―ヘーゲルにおける精神の〈第二の自然〉―	倫理学紀要（東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室編）		21	2013	pp.85~108.

石井基博	体系としての人倫の成立—ヘーゲル法哲学研究—（博士論文・同志社大学）				2013	
石井博基	人倫と国家—ヘーゲルの自由論の意義について—	文化学年報		62	2013	pp.161~176.
石井博基	国家主権と体系としての人倫—ヘーゲルの近代国家論—	哲学論究（同志社大学哲学会編）		27	2013	pp.18~33.
石井博基	ヘーゲルの近代国家論	同志社哲学年報		36	2013	pp.40~55.
大河内泰樹	形而上学批判としての形而上学—哲学史的コンテクストにおけるヘーゲル論理学（シンポジウムヘーゲル『大論理学』出版二〇〇年を迎えて）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.72~82.
大野木博基	ヘーゲルの絶対的同一性に関する一考察	哲学（広島哲学会編）		65	2013	pp.29~40.
岡崎　龍・日比野佑香	欲望と内的差異について—J・バトラー『欲望の主体』におけるヘーゲル論を通じて	論叢クィア（クィア学会編）		6	2013	pp.100~113.
表　三郎	レーニンのヘーゲル弁証法研究の意義	情況（第四期）	2	4	2013	pp.219~226.

片山善博	近代的個人とは何か—ヘーゲル『精神現象学』理性章Bを理解するために	現代と文化・日本福祉大学研究紀要		128	2013	pp.1=19.
加藤尚武	ヘーゲルの個体論とゲーテの色彩論	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.30~46.
門脇　健	ドラマを始める—ヘーゲルの観たハムレット—	大谷学法（大谷学会編）	93	1	2013	pp.21~49.
金澤秀嗣	Dialektische Logik als Grundlage eines ?richtigen? Rechtsverstandnisses : das Erbe Hegels in der NS-Rechtserneuerung	中央学院大学法学論争	26	1・21	2013	pp.161~191.
釜土詳二	若きヘーゲルの「宗教性」を探る—「生命」を巡る考察—	人間幸福学研究	5	2	2013	pp.144~200.
神谷栄司	ヴィゴツキー理論における自己意識と概念的思考の問題—ヘーゲル『精神現象学』に照らして—	京都橘大学研究紀要		40	2013	pp.13~36.

神山伸弘	二つのインド—ヘーゲル「世界史哲学講義」(一八二二・二三年ベルリン)オリエント論の複線構造—	跡見学園女子大学文学部紀要		48	2013	pp.121~132.
神林恒道	美学と美術史—ハルトマンとヘーゲルから—	美術フォーラム21		28	2013	pp.36~41.
桐原隆弘	キリスト教的ゲルマン世界における「和解」—ヘーゲル歴史哲学の宗教哲学的側面—	下関市立大学論集	56	3	2013	pp.23~44.
久保陽一	ヘーゲルにおける「関係の存在-認識-論」の展開(シンポジウム　ヘーゲル『大論理学』出版二〇〇年を迎えて)	ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編)		19	2013	pp.60~71.
久保陽一	意識の経験の学の構想—ヘーゲル『精神の現象学』「緒論」を読む—	駒澤大学文化		31	2013	pp.1~28.
熊谷征一郎	西田によるヘーゲル生成論批判の射程	日本哲学史研究・京都大学大学院文学研究科日本哲学史研究室紀要		10	2013	pp.65~88.

下城　一	ヘーゲルの『法哲学』―その成立史の背景（６）惑星軌道論（前篇）	横浜国立大学教育人間科学部紀要社会科学		3	2013	pp.19~43.
白川星而	ポスト・マルクスの群像（77）アドルノ（10）カント批判からヘーゲル批判へ	世界思想	39	2	2013	pp.40~43.
鈴木亮三	ヘーゲル哲学におけるオイディプス問題	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.155~167.
高藤大樹	「近代」芸術と「想像力（Phantasie）」―ヘーゲルの芸術哲学における「フモール」論についての一考察―	社会科学（同志社大学人文科学研究所編）	42	4	2013	pp.137~153.
高山　守	必然性と自由―「客観的論理学」から「主観的論理学」へ（シンポジウム　ヘーゲル『大論理学』出版二〇〇年を迎えて）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.47~59.
滝口清栄	ヘーゲル『精神現象学』「自己意識章A」コメンタール―「精神の概念」と主と奴論の体系的位置をめぐって―	駒澤大学文化		31	2013	pp.49~70.

瀧本有香	ヘーゲル美学における有機体の美しさ	哲学世界・別冊（早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻哲学コース）		5	2013	pp.15~26.
竹島あゆみ	承認なき和解と和解なき承認―『自然法論文』と『人倫の体系』におけるヘーゲルの社会哲学―	岡山大学文学部紀要		60	2013	pp.1~11.
竹村喜一郎	ヘーゲル度量論の構成と科学理論的意義	研究紀要（つくば国際大学編）		19	2013	pp.69~89.
堤田泰成	ショーペンハウアーの悲劇論と人間理解―ヘーゲルの悲劇論を対照として―	上智哲学誌		25	2013	pp.81~94.
中畑邦夫	悲劇的人間―ヘーゲル悲劇論における人間像の形成―	麗沢大学紀要		97	2013	pp.187~203.
尼寺義弘	ヘーゲルのコルポラツィオーン論	立命館経済学	61	6	2013	pp.1158~1169.
濱　良祐	G・W・F・ヘーゲルにおける「承認」と「自由」（博士論文・同志社大学）				2013	
平野喜一郎	ヘーゲル論理学と『資本論』の方法	立命館経済学	61	6	2013	pp.1212~1240.
福田静夫	ヘーゲル『精神現象学』の学的方法	現代と文化・日本福祉大学研究紀要		127	2013	pp.53~131.

藤田正勝	ヘーゲル哲学の日本における受容	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.5~7.
振津隆行	ヘーゲルとヘーゲルリアナーの犯罪概念	金沢法学	55	2	2013	pp.55~61.
牧野廣義	ヘーゲル論理学における矛盾・主体・自由（シンポジウム ヘーゲル『大論理学』の意味について―カントの超越論的論理学との対立から―）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.111~122.
松岡健一郎	ヘーゲル哲学の体系における「論理的なもの」	アルケー（関西哲学会編）		21	2013	pp.146~155.
松下晴彦	デューイ哲学における自然主義化されたヘーゲル	日本デューイ学会紀要		54	2013	pp.109~119.
三重野清顕	ヘーゲル哲学の時間論的研究（博士論文・東京大学）				2013	
山内廣隆	イエナ―ヘーゲル哲学の揺りかご（シンポジウム　ヘーゲル『大論理学』の意味について―カントの超越論的論理学との対立から―）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.99~110.

山口誠一	日本ヘーゲル研究史編纂の歩み	法政哲学		9	2013	pp.43~52.
山口誠一	ヘーゲル『精神現象学』「序説」第11節～第13節の解明	法政大学文学部紀要		67	2013	pp.13~25.
山田有希子	ヘーゲル哲学における生と死の概念について—『論理学』における「生命の矛盾」を基盤として—	宇都宮大学教育学部紀要・第一部		63	2013	pp.103~116.
山根雄一郎	批判と形而上学のあいだ—J・F・フラットのカント講義を手がかりに—（シンポジウムヘーゲル『大論理学』の意味について—カントの超越論的論理学との対立から—）	ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編）		19	2013	pp.87~98.
山松勇太	『ドゥーヴの動と不動』におけるヘーゲルとキルケゴールの思想	仏語文学研究（東京大学仏語仏文学研究会）		46	2013	pp.71~95.
山脇雅夫	ヘーゲルにおける知と超越—ドイツ観念論の新しい地図のために—	アルケー（関西哲学会編）		21	2013	pp.49~59.

寄川条路	文化接触としての異文化解釈学—権左武志『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』を読む—	カルチュール・明治学院大学教養教育センター紀要	7	1	2013	pp.1~10.
小坂田英之・師玉真理（共著）	ヘーゲル論理学—仮象無限判断および知の所有—	神奈川工科大学研究報告・A人文社会科学編		35		p1～7
徳増多加志	全体論と相関の論理構造—ヘーゲル論理学に於ける「本質的相関」を手掛かりに—	鎌倉女子大学紀要		17		p7～18